

- 一、新しい年にあたり
 - 二、矢出川遺跡群総合調査に参加して
 - 三、好辺山シンボジウムに参加して
 - 四、藤森栄一賞おめでとう
 - 五、寄贈文獻のお知らせ
 - 六、馬場平から矢出川まで
 - 七、会費納入のお願い
 - 八、追悼号の原稿募集
 - 九、四月例会のご案内
- 編集後記

佐久考古通信

No. 21・22号

1981, 2, 25

佐久考古学会



やまとばう

新しい年にあたり

会員のみなさん、今年もすでに一月、二月と例会も終り、誠に、寒波と申された水い冬の厳しさを克服してきたお元気な顔を合せることができます。

昨年はみなさん各地域で調査研究に追われた年でありましたが、佐久考古学会にとっても思い出に残る意義多い年でした。

先ず戸沢先生の講演会に於ける地域研究のテーマは歴史・秋の野辺山総合調査への参加となり企画となつて実践され、多くの会員が参加され、各地から集まされた研究者と一緒にされて、

に研究調査を試みるところが出来ました。これは地方の考古学会としては例外の機会であり

水く記憶される壯舉だつたと思ひます

また、大財界が古学公の説書が、野辺山高
旅の八ヶ岳講習会場として行なわれた。佐
久考古学会が準備、運行、整理に当り、県考
古学会発会以来の盛大な大会運営が行なわれ

たことも、佐久考古学会の存在を大きくした

おとらえてはたまない。こんな条件の中で分院開業は行なわれた。

これは、すべて会員の皆さんの活躍の結果
力の賜として深く感謝いたします。改めてお
詞申し上げます。

大きな支柱となっていた、武蔵 金さんと申

山忠雄さんを昨年は矢張り失いました。本当に残念でした。

会員の皆さん、今年はお互に先ず済寧を留意して大いに頑張って炎に耐えた年にしたいと思います。今年はじめての佐久島古道伝承をお届けするに当り一言添え申しあげます。

通りの採集は出来た。

「半田歩くて遠物に当らず」

「一田義久ヤハネーク一一三」

歩けども 楽る物なし 秋の風

104

十月二十一日午後になつてようやく雨は止

んだ。二十一、二十二日にかけて発掘調査が行なわれた。掘り下がられて行く赤土の中から黒曜石や水晶の見事な石器が発見された。こ

の赤土の中に先土器時代の人々の生活があつたつ。

しかし、私はあの赤土の中に不思議がある。月を感した。城は恩間であるかも知れない。

と云うのは、發生がなければ動物も人も住めない。植物は必ず枯れる。そしてまた生える。

も枯れた植物は腐殖質となり、土に還元し腐殖

十つより黒色土として土の表面に残る。しか

し、あの赤土のローム層の中にこの植物の遺

がどんよりした形で残っているのだろうか。

腐殖質とは別な形で分解され、あの赤土の中

に残存しているのだろうか。

古墳は枯れては廻り、肥料となりまた繁る

これが繰り返された。百姓はこの腐殖質の多

い土地を肥えた土地と云う、赤土をやせ地と

した。耕種はこの腐殖土の上に成立してきた

のである。

佐久地方は、千曲川をはさんで川西と川東では地形の違いがある。私の住む川東地帯は山は険しく岩山であり、これらの山脈の所々に他方にローム層は残っているに過ぎない。その大半分は岩山であり標の多い黒色土層である。学問的な事は私には解らないが、或は

積し、その一部が現在残っているのではなかろうか。此のローム層の台地の上に発達の多いもまた事実である。こんな所にと思うよ

うな山の中に見難い石があつたり、黒曜石や土器片が見つかることもある。

束てつきし 土に捨い土器一片

水りし土を 手掌で摩く

雪解を待つて赤土にいどんで見たいと思う。

(八〇、二、十四)

野辺山シンボジウム

に 参 加 し て

黒 塚 忠 男

S五十五年十月、秋深い野辺山高原の「矢

出川遺跡総合調査」と「第二回野辺山シン

ボジウム」に参加の機会を与えられ、全体を

通して大きな示唆を受けると共に、今後の考

古学研究の方向性を示してもらつた。

野辺山シンボジウムは、芦沢充則氏を代表

とする明治大学文学部考古学研究室と同じく

人文学研究所が三年計画で実施しようとしている「八ヶ岳南北における洪積世末期の自然と文化の研究」での第二年度計画と企画されたものであった。

野辺山高原が実験研究の対象として選ばれたのは、日本考古学会での最初に発見された

細石器文化で跡である矢出川をはじめ十ヶ所以上の先土器時代遺跡があり、しかも周辺にはハシバミの群落にみられるように、洪

積世末期から後氷期にかけての自然景観が残り、さらに八ヶ岳山麓の火山堆積物との關係で遺跡や遺物による文化概観の復元や自然環境の変遷などを立体的・構造的にとらえることが可能な地域として認定されたからである

ところ。

そして、この研究の具体的な目標は次の三

- 地形・地質・花粉分析・植物生態の分折から洪積世末期を中心とした時代の自然環境の復元。
- 分布調査・発掘調査等の考古学的分析を通じて、当該文化の変遷、及び遺跡群の把握による社会文化構造の復元。

3. 上記研究を通じて矢出川流域の自然景

觀を天然記念物とし、また追跡群を史跡として指定、保存をはかる資料を提供した。

さらに、研究体制や展望としている点は次の通りであるといふ。

- 人類文化と自然に関する具体的な共同研究として、地元研究者・自然地理学者・動植物学者・気候学者の共同研究とする。
- 地域を単位とした総合研究の一つの点として、一小地域に生起した人類史のひとまとまり、その地域の自然的、人文的特性を地域研究者との共同研究の中で明らかにする。
- 文化財と自然の保護活用をしていくため、研究の最終的な成果は、その保存について関係機関が措置を講ずる契機を作り出すことを目標としている。

以上のようないくつかの問題を掲げ、この計画を作成するため、第二年の本題は、

- 矢出川追跡群の追跡分布調査・植物調査
- 発掘調査

3. 横山研究室

4. 地形地質調査

5. 塚原樹調査

月二十四・二十五日のシンボジウムは、愛媛ホテルに於て開かれ

た。その概要是、

- 一九八〇年度調査報告
- ① 本年度調査報告
- ② 分布・発掘調査
- ③ 地形・地質
- ④ 花粉分析生態
- ⑤ 植生（スライド）
- ⑥ 野辺山高原の植物分布

戸沢氏

矢島氏

杉原氏

安田氏

山崎氏

安田氏

西田氏

宮坂氏

西田氏

西

た。

昭和五十五年十月二十六日

藤森 みち子

藤森栄一賞

おめでとう！

今回の受賞は、佐久考古学会にとつても、由井茂也公賞と共に各人が受賞されたよう

由井先生

昭和五十五年十月二十六日

第五回歴史系一賞の受賞式は、矢田川が跡
静岡会員調査及び第二回野辺山シンボジウムの
終了した翌日の十月二十六日、野辺山參業報
興会館で行なわれました。

矢田川總石器遺跡の発見者である、由井茂
也公賞にふさわしく、地元での受賞式は県考
古学会初まりて以来の盛事となりました。伊
藤他にあたつた佐久考古学会員は、会場の配備
古受付、お茶の接待等でてんてこ舞ひ忙しさでし
た。参加者が多くと会場へ集まり、前日より
久用意しておいた机や椅子はアツとこり間に足
りなくなり、充電機や椅子を駆使し、もう一
列座りましたが、それでもまだ足りず次か
ら次へと椅子を補充し、講演会が始まる頃に
はどうとう全部の椅子を出し切ってしまったま
した。

受賞式では歴史系一先生の歓快からのお手紙
が読みられた時は、当の由井茂也公賞はもちら
ん、公賞が一語勝まり返る感覚に包まれまし
た。

また、井出正義会員や佐久考古学会の白田都
雄氏が受賞会員に呼びかけを行なつてくれま
したので、予想以上の地元の方々が受賞式と
講演会に参加し、喜びを共にしてくれました。
おめでとうございます。ながい師の御研究
の深さを感じさせています。

成田市間野合古跡発掘調査報告書

一九七九・十一 間野合古跡調査会

高野合古跡発掘調査報告書

一九七九 柏原教育委員会

茨城県古河市周辺採集の先士著時代資料

由川 良・道近 明

(以上明大 通次 明氏)

多摩ニニータウン第426番地調査報告書

多摩ニニータウン第551番地調査報告書

(以上会員 川島 邦人氏)

開口B 稲崎

一九八〇

小諸市教育委員会

（会員 花岡 弘氏）

以上が審議されました。お礼申上ます。

馬場平が矢張りで

昨年の九月のある朝、桐原健先生から由井茂也さんが藤森栄一賞を受賞したことを知ら

強も熱くなつた。

宮下謙司

○ ○ ○ ○ ○

された。その日の私は一日中、幸福な気分の中にいた。早く家に帰って、由井さんの喜びの声が聞きたかった。第一声は「ヒツタリし

たをあ、せひやめてくれって言つたんだけど」という穏やかな言葉だった。その声を聞いて、私を依頼されたのは昨年の暮れだった。何を書こうかと思ひながら、結局、私が感動を受けた由井さんの歩いてきた人生の一端を語の運びはさらに広がつた。

それから一ヶ月後、矢出川考古研の総合調査があり、その最後を飾る長野県考古学会の秋期大会は静かに開催された。由井さ

べンをとることにした。

思ひ出と本の中で

いシーンだった。感動を身一つにして、藤森先生との思い出を詠じる由井さんの姿と、二百人を超える聴衆の中に傍聴の身体でじつと見つめる奥さんの視線があつた。そして、その奥さんと由井さんの心の中でも思ひ起こされ共に歩いてきた人生を思つた時、私の目

であつた。旧石器を浪い求める吾輩で情熱的な人間像を熱情をこめてドラマチックに描く藤森先生の文章の中で私は由井さんに出逢つた。

野辺山の由井茂也さんといふ名前を私が初めて知ったのは、今から十六年、西の夏のことである。上諏訪で働いていた娘のところへ遊びに行つたおり、小さな古店で一番の名前である。それは私が最初に手にした考古学の本

こう由井さんをシャンパン姿に帽子をかぶり移動ゴテをもつて野辺山の遺跡をさぐる写真とともに紹介しながら、矢出川遠郊における日本最初の縄文文化発見の研究を描いていた。この部分を読んで、我が信州にも、社食料の歴史の時間に学んだ相武忠洋さんの岩宿跡発見と同じようなドラマがあつたことを知り、感動した日などを、今でも覚えている。以米、由井茂也さんといふ名前は私にとって近寄りがたい魅力的な存在として、

自分が考古学をやる意識の中にあった。

大字へ進んで考古学を勉強するようになつてから、再び本の中で山井さんと出逢つた。

ひとつは『石器時代に載った鳥塚平道跡の報告であり、感謝の意は、長野駅前の書店で買った『太陽』誌上で目にした岸井良介氏の文章であった。それは大学一年の頃だった

と思つ。その年の夏休みに私にはこれが川上村を訪れた。諏訪から和田峰を越えて、信濃國分寺に立ち寄り、中學時代の担任で一

夜の宿をとった後、小海渓で川上に向かった。油大森山遺跡を見学し、帰りは馬場半道跡を見よよりと坂までの長い道のりを歩いた。今思ひ考とその時、私は由井さん宅の前の道を通過して、坂は由井さん宅の前の道を通り、久いたのである。その足で辺山へ、野辺山はすごい雰囲の中についた。白い煙の中に由井さんがお跡を以めて歩き抜けている野辺山風の広い空間を思つた。

昭和二八年の暮れもかしこつたころ、岡不動氏（立教大学教授）が私は長野県南佐久郡川上村在住の考古学研究家、由井茂也とおなじく、いろいろ遺物を見たら、この

土地の話を聞いたりしていた。多年にわたる由井氏の収集品の中で、ときに注意をひいた一個の石器があった。安山岩製の長さ八センチほどの石刀をもちいた削り具である。出土地はすぐ隣り村の油佐久郡東牧村野辺山高原であるとのこと。いまにも雷が降り出しそうな天気だったが、どうしても

その遺跡を調査してみたくなり、ともかく強行軍をして出かけることに決心した。

あくる朝、駄駄をついてヤロほど歩き、現場についた私たち三人は、スクワットと櫛ゴテを使って、すでに五センチほどもつてまとった雪をとりのけ、土を少しづつ削ぎながら別々に石器をさがしはじめた。一ヵ所にかがんだけでも五分か十分もすると、地下足袋の中の足がこわつてしまいそうにならぬ。岡本氏が突然とびあがつて雪の上をぐるぐる走りはじめた。手だがこからまよふに運動するのだとう。私も指がとおりそうになると走つた。そして本があたたまると石器をさがしにかかつた。

いつほり由井氏は、ときどき立ちあがつて両手をふりながら「オーライ、オーライ」と

大声をあげていた。タマとまちがえられないように、遠くの人に知らせるのだとう。

このあたりにはいまでもタマが日没するので西中で鳴いているとタマにまちがえられて鐵鐘をうちかけられる危険性があるのでそだ。それを鳴いてからは、岡本氏も私もときどき手をふつて大声をあげることにした。

（岸井良介「日本人はどこからきたか三」）

この気になるよう左光景こそ、日本における新石器文化研究の歴史的瞬間であった。それで中井さんの人格が象徴的に描かれているといつてもよいでしょう。

また、昭和三二年の十月、ニホンオカミの飼育者・飼育者を訪れた魚良信夫氏は「三國神」という小文の中で由井さんの人柄に感銘している。

昭和三一年十月一日、私は三国神に登つてみたいと考えて、その晩は、同行の由井茂也君と共に、小海渓川上駅前の由井茂也さんの家にとめていた。……

神について、やれやれとおもつた瞬間、

上州の谷から、無いあがつて来た氣流にうたれて、ぬまいを感じた。由井さんが、何かかって、大丈夫ですか、と急を出して

つやくページを開いてみると、由井さんが發
場してきた。

た。私は、黙つて笑顔をつくつて、うなづいた。
いた。……

橋本が、やけに私の心にくらうた。由佳さん、大声で後の方で、となりているのに、私は、泣いた。《鹿島信夫「三国志」》

三國志の自然の中で鷹揚の直良氏を筑づか
とおさんちやましひせひやりが、私の心を打つた。

大学を卒業して、甲子校の教諭として廿五年は、五三年の夏休みに坂城町の開拓塾講師となつて、その発掘調査に参加した。そこで、「真摯なアーチュアによつて日本の風土が育つ」とかわざして、かつての三次鉄道に代表されるようならぬ、信州教育の教師の生き残りかと思わせる、素晴らしい先生に出会つた。地质学者の坂井又三郎先生である。発掘が終つて坂城を去る口

先生から一冊の本を贈呈していただいた。ま

「この本まだったら読んでみた。誰かに似てて西口から。」と娘が一冊の本を持ちてくる。さし出された手を手にとつて

うな気が
だ思つた。

みると、藤森栄一さんの「日本茶の研究人」である……。腐の中で折しの感動が沸いてくるのであった。箱の中の三人の感激が私の胸に伝わり、満きたつてゐるのであった。その感激の心をおさえるように、窓の外を見る。ちょうど時計は同じ年の藤森が描いてゐる。こうなう時は、同じ時計で、同じ場所で麻むらへまだと思った。懸けたりツタを見あげる。そりだ出かけよう。……忍は私たちの期待があるのである。

ようどその真冬の今、現地で味わつてみた
いとする心の中で、その先士滿時代の旅
人の生活の趣であったこの野邊山のローム
に直接手をふれてみたかったのだ。……
あつ、何か二つ三つ、水晶のような細長い
かけらが、びかりと光り落ちた。…………

彼女たちは対辺山脈の古代人の遺跡を調査した。烟を歩き、開拓地を歩いて、植物の分布状態をしらべる。調査はすでに六年目にはいっていた。

彼女たちはよい指導者にめぐまれた。由

井茂也先生といふひとである。このひとは小説家の歌ひとされた川上上という村に住み、すでに五十年の歳月を、遺物の採集とその研究にかけている。歴史の郷土史家といふべきだが、この先生にはその他の独学者におちいりやすい偏見、独断がすこしも見られなかつた。温厚にして誠実なひとがらで、決して学識をひけらかすことなく、つねに真摯な姿勢をくさらない。先生の態度は、教え子といふべき女子大生に対しても変わなかつた。などとも独断専行の決定をせず、いつの場合にも合議によつてものとを判断した。こうだ——といふ押しつけでなく、どう思いますか——といふ問い合わせの用法を先生は多く使用した。

立岡・知能において尊敬すべき先生でありそれでいてこの人の口癖はすこしも強張的などころがない。そして、なににもまして女子大生たちを一人前の研究者として認めているところにこのひとのやさしさがある。といふだろう。由井先生なくして、女子大生の調査は考えられなかつた。

先生はつねに彼女たちに向ける。弁当出迎いと思い出の中で文字にしていることを持参、川上村から歩いてきて、約通の場所指導し、考古学にかぎらず、植物、動物の観察を語り、自然について、そして、自然とそこに生きる人間について、ふかい洞察を彼女たちに伝えた。彼女たちは先生と一緒にちに力を楽しんだ。教えられて、木イチゴを食べ、冷たい湧水をさぐりあて、昼食をひいた。食事のあいま、先生は自然を語り、昔話をはなしてきかせる。川に棲む岩魚を語り、その獲り方を話し、それを手づかみにした達い思い出をつけ、さらに熊に出合ひ、鹿を追いかけた昔話をはなす。

(立岡洋二『八ヶ岳山麓』)

由井さんと出逢つた人々のみただけでも、由井さんの人間的な魅力と存続の大ささを思わずにはいられない。

立岡先生は著書の中で、自らをまた出逢つた人々を描いたが、由井さんは自らを文字にすることなく、すべて他から描き出されているのである。

由井さんが出逢つた人々の数は教えきれないので、その人の心の中に、いつも由井さんがいるように思えてならない。そんな由井さんと出逢つた人々の足跡を私は追い求めでみたくなつた。

立岡氏は由井さんの身近で暮してゐるだけあって、由井さんの人間像を、もうこれ以上、何を語ることがないくらいまで、克明に心暖まる筆で描いてゐる。この文章を読んだだけで、読者は由井さんのイメージがはつきりして、由井さんとのひとのやさしさがある。中学生の時、本の中由井さんを知り、その姿は大学時代、長野県考古学会の席上でお目にかかることがあつた。けれども話をする機会もよく噂が流れ、初めて由井さんと遭遇したのは、昭和五四年の夏であつた。それは、長野県考古資料室の先上器遺物実測調査で、由井さん宅を訪ねた時である。

大倉妹で雄大な八ヶ岳と、遙くに聳え立つ
宝塚山をみながら、由井さん宅に着いたのは
正午近くだった。美深いソバを泡騰走りにな
り、由井さんを訪ねた多くの研究者が渋滞ま
りした思い出のこもる二階の部屋で寒冽が始
まった。由井さんは滞在していく一週間の計
終日私たちはそばにして、午前、午後の二回
お茶を入れて下さった。そのお茶の時間に、
計辺山の自然、歴史の立地、表採の美しい山、
馬場半の発掘、細石器文化発見のことを屏次
さん、岡本さん、相沢さんという考古学史の上記
登場してくる研究者の実名を上げ、エピソード
を混えながら、笑顔でもの静かに話して下
さった。その一言、一言が私の心にしみ入り
夜旅館に帰つてから、その感動がさめないう
ちに日記に記すのが楽しみだった。

り、遺物の整理箱を由井さん宅に届けたり、葉書をいただいたりして年が明けた。二月一日、由井さん、島田さん、私の三人で新潟市まで火薙土器館を見学に行つた。新潟は由井さんが青年時代に農民運動へ入るための基地をかたちづくった思い出の地でもあった。

由田さんは、村長・郡会議員をしていた傍ら、半氏の末子として、川上村跡所平に生れた。小学校高等科卒業後、第一次大戦後の社会の混亂や恐慌の余波を受けた農村の苦しい生活を目のあたりにみて、社会問題に關心を抱いていく。

夜の遅い列車で長財に帰り、その夜は我が家へ泊まつて下さつた。五時位近くの車中も由井さんの話にひきこまれてしまふ、時計の音をたつのを気づかずになつた。家についてからもう深夜二時まで話しこんでしまつた。考古学を中心とした動機、農民自治運動の歴史、切なることなど、由井さんとの口から新しく話を聞くたまに、私の心も自然と豊かになつていつた。同じ気持ちは島田さんも感じたに違ひないし、今まで由井さんと出逢つてきた人の多くが味わつてきたのだろうと思つてみた。
由井さんからお聞きしたことを元に、由井さんと出逢つた人々の足跡を辿つてみた。

問題・小作問題・農民組合論等の講話を聽き、三宅正一・浅沼権次氏等の当時の農民運動家の指導者の多くと接した。また、夜間は農民学校で農民組合員の青年部・児童に珠算や図語を教えながら共に学んだ。そして、大島黄麻氏から全日本無産青年同盟のバッヂを贈られた。農民学校には当時の特異書類の範がらせがあり次ぎやもなく帰宅せざるをえなくなつた。これを契機に若林忠一氏を知り、昭和二年十月一六日、農民自治会佐久連合会発会式で竹内園庭氏に出逢つたことによつて農民自治

その年の秋には対辺山シンボジウムが始ま

由井さんは、村長・郡会議員をしていた保

運動に着いた青巻の情熱を燃やしていくのである。そして、佐久電気消費組合運動や昭和五年五月二七日の第二回海軍記念日大運動会に向けて、治安維持法反対・帝國主義反対・天皇制打倒・戦争を記念する運動会廃止をスローガンにかけた反戦運動にも王体的につかわっていった。そのため警察につきまとわれ、就職や結婚等でいぶん苦労し、戦を求めて熊本までへも放浪の旅をしている。また、村の中では、地域文化を高める青年団活動に力を入れ、村の若い教師達とも積極的に交流していた。

考古学との出逢いは、生家に集められた石器があり、馬場平に烟があつたため自然のうちに親しみを感じた。新潟から帰つて間もなく、東京から突然「共産党いるか」とついていた葛城という老人が多少考古学の知識をもつており土器の系統を教えてくれたと云ふ。仕事の關係で川上郡と野辺山駅を往復するため、昼休みや仕事が終つてから日没まで野辺山の道跡を探し求めた。表探しに一番良い時間帯は八ヶ岳に太陽が沈む頃で、夕日に照らされてキラリと輝く馬蹄石を見つけるのがたやすかつたという。道具を求めるながら野辺山の大体を歩いていると、懐中電灯を持った一晩中採集してみたい何處も見つた。通りの汽車に乗り遡れそうになると、迷々か迷々で、「待ってくれ」と叫びながら汽車をひっそりと走った。採集に夢中になり過ぎて汽車がなくなってしまった。川上までの二時間の山道をフタコロの鳴き声を耳にしながら家に帰つていった。こうして、まだ開拓されない広い野辺山の牧場の標地や道などをくまなく歩きながら、野辺山の大地に埋れた人間の歴史を掘り起すことこそ、由井さんにとつては、夏も終ろうとしている八月十九日に、芦沢長介氏と芦沢が財氏が由井さん宅に突然顔を出した。『南佐久郡の考古学的調査』を見ていた芦沢氏が川上村出土の石棺に注目し、茶葉を握り起すとともに、由井さんにとつては、

農民運動の原点でもあった。遺物、遺跡を求めて、自分の足で歩くことによって動物や植物、鉱物などの自然に出逢い、人との話を通じて、伝説、民俗、歴史などにも問題意識を持ちながら、地域研究者としての観察眼を擴張する。馬場平で採集した石槍を手渡すやがて由井さんにとつても、日本の考古学に見えたところ、氏は「これはブレッソン又だ」と即座に答えたが、由井さんは「何をいうかと思った。九月に入ると佐藤連夫氏が由井さん宅を訪れ、馬場平、野辺山の追跡をみて帰つている多くの人が訪れる中で

がたやすかつたという。道具を求めるながら野

辺山の大地を歩いていると、懐中電灯を持つて、一晩中採集してみたい何處も見つた。

七月には野辺山の土器について山内市勇氏と和島誠一氏に手紙で問い合わせ、奥水利雄さんと出来たのも同じ頃である。八月には岩崎卓也氏が由井さんを尋ね、講演会で八幡一郎氏に述べている。

由井明、港氏とも何處か調査に出かけている。七月には野辺山の土器について山内市勇氏と和島誠一氏に手紙で問い合わせ、奥水利雄さんと出来たのも同じ頃である。八月には岩崎卓也氏が由井さんを尋ね、講演会で八幡一郎氏に述べている。

由井さんは片山氏と何處か手紙をやりとりしたが、馬場平の発掘準備を進め、十一月一日、片山、麻生、吉崎昌一、高橋義の四氏がやつてきて、翌日から馬場平遺跡の発掘が始まった。野辺山の考古学に初めてメスが入られた記念すべき発表の始まりだった。まもなく、戸次、岩崎、大塚利夫氏もお加わりなく、戸次、岩崎、大塚利夫氏もお加わりなく、

片山では竹内賀・興水利雄氏が何度も見学に訪れた。発掘で出土物が出たたびに若い学生達が「論文とり消せ」、「電報打て」と言っていたのが印象的だったといふ。この学生の言葉は日本先史器研究の草創期の学会の一面を窺わせているようである。五日には由井さん、岸井、戸次氏の三人で野辺山まで足を伸ばし森木原遺跡を調査している。この馬場平の発掘は、その後の野辺山の地域研究に大きな影響を与えて終了する。

自分の住む大地から自らの手で一万年前の歴史を振り起こした由井さんは竹内さんと相談して、地元の人を中心とした歴史の発掘を計画する。大深山遺跡の発掘である。竹内氏が中央と連絡をとり担当者を見つける一方で由井さんは準備のために地元との話し合いであ

きて、十一月二十日に大深山遺跡の発掘が始まつた。しかし、その後の経緯実業を導いた第一回発掘の由井さん、竹内氏の功績は昭和五一年に刊行された報告書で何も触れられていないのは残念である。

年の瀬もよしとつた十二月二十五日、片山

氏と岡本氏が声を交わした。翌日は激しい雪降りになつたが、由井さんは会社を休んで二人

と野辺山へ行き、矢出川遺跡で櫛石器文化を発見する。この様子は先にみたとおりである。

翌年の矢出川遺跡の発掘は馬場平のメンバーのほかに新しく森木義典、相次忠洋、相

島忠彦氏が加わっている。発掘前夜、由井さ

んの衣装した矢出川の櫛石器をみせる、みんなは明日から発掘しようとしている遠慮な

由井さんが握ってしまったと感嘆して然り

このほか、高倉輝氏との交流や村会議長の任務に就いたこと、村長選舉に出場したことなど、由井さんのまだ知られていない側面は

多く、由井さんによつて大切に心の中に残る。私はその一つ一つを大切に心の中に大事にしまつておきたいと思っている。由

井さんを慕い、尊敬し、その出逢いに感謝し

る。

その後は、矢出川の第二次発掘で杉原莊介大塚初重、小林三郎氏、ニホンオオカミの調査でやつてきた西良信夫、桜井清義、吉岡赳夫、杉山莊平氏と出逢っている。考古学以外では、地質学者の鹿間時夫、戸谷洋氏とも親交を保っている。

これらの人々より若い世代の研究者との出会いには見えない。しかし、由井さんはそのひとりひとりをしっかりと記憶していく、その出逢いを思い出をこめて樂しそうに話してくれるのである。一方、かつて由井さんに出来た人々も川上の由井さんをされることが多く、そのほとんどの人々が今でも由井さんと交流しているのである。

このほか、高倉輝氏との交流や村会議長の任務に就いたこと、村長選舉に出場したことなど、由井さんのまだ知られていない側面は多く、由井さんによつて大切に心の中に残る。私はその一つ一つを大切に心の中に大事にしまつておきたいと思っている。由井さんを慕い、尊敬し、その出逢いに感謝し

たひとりとして……。

時の食糧事情はこのように厳しかったのである。

地域研究の実践家として

文学に記された由井さん自身の考古学、民俗学等の研究者としての側面は散少ない。文字として残さなくて、由井さんの口頭講義でいろいろ研究姿勢については、由井さんと出逢つた人々が口述してから由井さんとま

び、調べたり、資料を採集したり、人に性たり、本で調べたりしながら、土地の歴史や民情等を明らかにしていく姿ではないかと思ふ。その成績や研究にとり組む姿勢が土地研究者々に影響を与え、地域社会にプラスの面で新しい変化を引き起こすことにつながる研究である。

なら。発掘、移局とされたことではなしに、
もつと廣い目で猿類より遺跡全体を見守る必
要はないか。渡り鳥的発想で、すまされる新
見方法に少しは物をいいたくなる。つきに考
採についてであるが、研究者の間で、表記を
厳規したり、表採の遺物について資料価値を
號づけたりする傾向である。旧石器の遺物はそ
の広さに比較して発掘はほとんどが面積であ
る。私たちは表采によって遺物の層面や石器を

決して消えることはない。それは先にみたよ
うに、一部の第三者の筆が如実に物語つて
ゐる。むしろ印刷された活字ではない、由井さ

よう。
地域研究の実験家である由井さんの一頃が

の網み合せに、知見を広めている。もつと当
備をもつて表面炭鉱の価値を高めてゆきたい。
それらの点から私は、旧石器の研究では常に

んの川上に生きる存在と云々が、川上・野原生の地城研究を象徴してゐるよう思えてならない。私は常日頃考えてゐる地城研究とは、ある

5。 一つは昭和四四年八月一八日付の朝日新聞上に掲載された「私の地方史研究」で、由井邦さんは藤原榮一先生と二人で矢出田

道筋に近接することの出来る地方の原住者たちを材料のためでなしに、大切に育であげ、つねに遊覧の知見と、保護をつづけなければならぬと考える。」

土地に生され、その土地の自然や風土に育てられながら、東の山から顔を出す日の出と、西の山に沈む夕日の御目身体で感じ、土地の食文化で味をつき合ふ機会で御飯を食べ、土地の百葉で頭をつき合ふ機会で御飯を食べて話をすると。その何回、何十回といふ回数で、じつは日常生活の繰り返しの中で、気づき、癒し、抱いた問題を、何度も現地へ足を運んで

お蔵に歩いたことは間違ひから、唐じくも五
な指揮をしてゐる。「矢出川沿の墓場がす
んで二十年近く。数回重ねた試験を発掘で、
一度も見ないし、出ないと紹介された石器が
あとから表採される。その数が増し、組成が
複雑多様になる。西久式文化のような住居跡
とか道筋の繪跡等、簡単にはつきりさせらわ

ところへ又と金門の小さきこじらへとアリナリ
め、目にしている人は少ないので想われるが、
考古学研究者としての田井さんの考え方の確
勢が手にとるようになるばかりか、矢出山の
遺跡をはじめとする川上、計羽山の遺跡を
見、発掘し、柏毛遺跡の佐野を実現させた当
人の實業として誇張力に富む發言である。今

小の内容は現在の考古学における重要な課題を競う指摘していることに読かされる。それは、川上の大地に生れ育ち、疫断とともに五十年の歳月を歩いてきた山井さんの人生の歴史から出てきた謙虚を兼業であるが、緊急事態研究には大きな資産として發揮のである。そりや貴譲渡に追いまわされている現在の考古学研究には大きな影響をして居くのである。

げていたなどという事実につづいてあり、研究者の方の資料としていただきたい。」と紹んでいる。

由井さんのがこの報告を書いた昭和四五年前後は同じ東京の若手は陳の若々しく活躍途絶するにむかって、キメートルを越える高齢の先生たちが注目された時代でもあった。そのような学界の動向の中で、少ない表題資料から高齢の先生達がにおける特異、魚藻的色彩をもつて山の風の存在を指摘したことは歴史的にも重要なである。

り、氣物慄ぶづくらや、佐久歎歌会、古文書研究会で古文書を勉強し、村内の検地帳や古文書を調べ、等とつてゐる。

新幹線調査といつても過言ではなじせよ

最近、中世史研究者によつて、中世以前の日本は単一の農業社会ではなく、非農民であ

歴史資料を発掘していく。示して、新しい歴史は決して一人のものとせず、多くの人に譲

もう一つは、長野県考古学会誌に発表され
た「軽井沢高砂の弥生式遺物について」であ

る山の民や川の民に往日して、歴史を見直す作業が始まっていることを考へる時、出井

つてくれるのである。

も、最高十二百メートルの東洋二高原全貌が、眼前に現れるのである。

さんの指摘の重さを思わずにはいられないので、尼谷さんも首をひねって、口元

に世送つてきたが、さつも何かもの足りなくて、そぞぞきてはつらしかつた。ところが

生時代の遺物が点々と出十していることを御

が経験していない地域のことを、聞き取る

山井さんと対話したことによつて、長年理解

一の地域と考えられがちなこの地方にも弥生人

といふのではなく、七十年の長い人生の自らの体験の中で、時代とともに移り変わつてき

として追い求めてきた人間が出来たときの感動が、たまたま見つかりましたのである。それは、由井さんがごく

の足跡があるといふこと、即ち、発生式の著作文化を持つようになった時代でも、人々は

た風俗の変遷を身で受けとめ、小さき民族問題をも大切にしながら、石仏を写生するなど

にでない」と思われる筆者も、郷土史愛好家ではなく、眞の地域研究の実践者であるからな

一見考えられそらもないこんなとんでもない
高嶺にまで、解説や説明のために生活圈を広

対辺山、川上の民俗を精緻な目で觀つめてゐる。また、「しげ里」の号で俳句や短歌を創

わが生まれ育ちし家の真向いに
も知れぬ。

けていたという事実についてであり、研究者

り、氣物標本づくりや、佐久史跡会、古文書

の資料としていただきたい」と頼んでくる。

研究会で古文書を勉強し、村内の検地帳や

後は同じ東洋の菅平は障の岩や唐沢岩陰道跡

七七才に至る現在でも、佐久考古學會の会

見える丘に来て今日も石器振る

付記

この手もて振り この眼もて確と見し
赤土層より出でし石槍

しげ里

原稿を書きながら、自分のようなものが、
由井さんの事を書く資格があるのだろうかと
何度も心配がかかる。その隙で島田恵子さん
の心配かい励ましの電話を受け、私が由井さ
んに出逢う前は、由井さんのほんの一言しか
知らなかったという反省をこめて書かせてい
ただくことにしました。

川上、野口の大忠とともに生きてきた由
井さんの足跡を追ることは、近い将来、長野
県や佐久の考古学や地域研究を研究史として
位置づけていく上で、欠くことのできないこ
とだと思います。百葉足らずや表現等で由井さ
んに叱られるところもあると思いますが、どう
かお許し下さい。また、文中では本末なら
り「由井先生」と書かなくてはいけないところ

を、「由井さん」と親しく書かせていただけ
ましたが、これは由井さんが「先生」と呼ば
れることを好まない心情を大切にしたかった
からです。

追悼号

原稿募集

本稿を書くにあたり、由井さんはもちろん
のこと、島田恵子さん、白田武正さんには並
々ならぬ御協力をいたいた。記して心より
感謝申し上げます。そして、この一文を由井
さんの藤森栄一賞、受賞に対するささやかな
お祝いにしたいと思います。

(一九八一年二月)

考古」の連携号を年度内に発行すべく準備中
です。
与魚、南・奥水利雄・竹内・恒・武蔵・金
昌山忠臣氏等の故人を偲んで、会員の皆様の
原稿をお寄せ下さい。

原稿用紙一枚以内
〆切 四月十五日必着

提出 原稿用紙一枚以内
〆切 四月十五日必着

佐久市岩村田佐吉町一〇四〇ノ七

木内 捷方

佐久考古学会事務局

会費納入のお願い
会費の滞納者には、振替用紙を同封しまし
たので納入をお願いします。

現在、会の経済状況はひどく迫っています。
間近に佐久考古の学術誌の発行もひかえてお
りますので御協力をお願ひ申し上げます。

故人ととの思い出、出会い、その他、先生方
を懐んだ原稿をたくさんお寄せ下さい。

(追悼号編集係より)

(会計より)

四月例会のと業内

編集後記

佐久考古通信編集委員会

四月例会を左記により行ないます。

今回は、長崎県土史研究会が計画した講演会
を共催することになりました。

万端お詫びせの上ご参考下さい。

日 時 四月十一日(土) 午後一時三十分
場 所 岩村田浅間会館大講堂
演 題 「佐久の吉原とその氏族」
講 師 桑原 雄先生(長野県史刊行会・考
古学、東京古学会員)

佐久考古通信編二一・二二号の合併号をか
届けいたします。
懇親の寒さからとうやく解放され、賛同を
戴いた遠路のバトロールに活動することがで
きる季節になりました。各處で動きはじめた
元気な声がちらほら聞かれます。

今回の合併号は、お忙しい宮下龍司氏に無
理をお願いして、由井茂也会長の監修賞受賞
記念特集の大作を寄稿していただきました。

ここに改めてお礼申し上げます。

また合併号としたため、お忙しいところを
早くから原稿をお寄せいただきました皆様に
はご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした
が、編集の労苦に免じてお許しいただけたら
と思います……。

(E子)

佐久考古通信編 21・22号

発行所: 佐久市大字岩村田1040の7

佐久考古学会事務局 木内 捷

TEL 02676 8 0617

発行者: 由井 茂也

編集者: 林 幸 薫 花 国 弘 島 田 恵 子

佐久考古通報

- 一、昭和五六年度佐久考古学会總会次第
- 二、昭和五十五年度佐久考古學公會務報告
- 三、昭和五十五年度會計決算報告
- 四、昭和五十六年度事業計劃（案）
- 五、昭和五十六年度會計予算（案）

版 23

1981. 5. 31

佐久考古学会

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

昭和 56 年度佐久考古学会総会次第

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

1. 日 時 昭和 56 年 5 月 31 日 (日) 午後 1 時 ~

2. 場 所 佐久市岩村田 岩間会館 大会議室

3. 日 程 (1) 開会のことば

(2) 会長あいさつ

(3) 日程説明

(4) 読長選出

(5) 読事

第 1 号議案 昭和 55 年度会務・決算・会計監査報告及び承認の件

第 2 号議案 昭和 56 年度事業計画(案)承認の件

第 3 号議案 昭和 56 年度会計予算(案)承認の件

(6) そ の 他

(7) 閉会のことば

4. 記念講演会 午後 2 時 ~ 4 時

「日本の古墳文化と佐久の古墳」

講 師 大 塚 初 重 先生 (明大教授 文学博士)

5. 懇親会 会場 佐久ホテル

(第1号議案)

昭和55年度佐久考古学会会務報告

55年5月11日 佐久市岩村田浅間会館において総会及び明治大学教授・川添充則先生による「信州の考古学と地域研究」と題した講演会を行なう。

55年9月18日 第1回役員会

56年1月24日 第2回役員会

56年5月11日 第3回役員会

55年6月14日 第1回例会

55年7月12日 第2回例会

55年8月 9日 第3回例会

55年9月13日 第4回例会

55年10月11日 第5回例会

55年12月13日 第6回例会(忘年会及び藤森實受賞祝賀会)

56年1月24日 第7回例会(新年会)

56年2月14日 第8回例会

56年3月14日 第9回例会

56年4月11日 第10回例会

56年5月 9日 第11回例会

55年7月10日 佐久考古通信版20号発行

56年2月25日 佐久考古通信版21、22合併号発行

- 56年5月27日 佐久考古通信第25号発行
- 56年5月30日 佐久考古第5号「追悼号」の発行
- 55年8月31日 第5回藤森栄一賞遼考会において当公会長由井茂也氏に受賞が決定される。
- 55年9月11日 矢出川遺跡群総合調査の打合会を明大事務局と行なう。
- 55年10月13～23日 矢出川遺跡群総合調査への参加（当会より20名の公員が調査または見学に参加した）
- 55年10月24日・25日 第二回野辺山シンポジウム（当会より10名が参加）
- 55年10月26日 県考古学会秋の大會が第二回シンポジウムに引き続いで野辺山で開催され、当会は前日より準備、運営のお手伝いをする。
第5回藤森栄一賞受賞式が行なわれる。

以 上

(5) 桜久考古道信 昭和 56 年 3 月 27 日

昭和 55 年度会計決算報告

収入の部

単位円

項 目		本年度予算額	本年度決算額	比 較	説 明
1 繰越金	1) 繰越金	20.016	20.016	0	
2 会費	1) 会費	80.000	90.000	10.000	36人
3 委託料	1) 委託料	0	0	0	
4 会報売上金	1) 会報売上金	10.000	0	△10.000	
5 寄付金	1) 捐助金	0	0	0	
	2) 寄付金	0	0	0	
6 雑入	1) 雑入	9.984	0	△ 9.984	
合 計		120.000	110.016	△ 9.984	

支出の部

項 目		本年度予算額	本年度決算額	比 較	説 明
1 報謝	1) 謝礼	10.000	15.000	5.000	
2 旅費	1) 役員旅費	5.000	0	△ 5.000	
3 消費費	1) 印刷費	45.000	123.000	78.000	追悼号10万円
	2) 消耗品費	10.000		△10.000	
	3) 食料費	15.000	19.050	4.050	役員編集、研究会
4 役務費	1) 通信費	20.000	21.160	1.160	
5 備品費	1) 備品購入費	0	0	0	
6 事務局費	1) 事務局費	10.000	2.480	△ 7.520	
7 繰出金	1) 繰出金	5.000	6.000	1.000	結婚祝見舞
8 繰越金	1) 繰越金	0	0	0	
合 計		120.000	186.690	66.690	

(第 2 号 議案)

昭和 56 年度事業計画(案)

1. 講　　会　　5月31日(日)
2. 例　　会　　月1回第2土曜日 午後2時~
3. 講演会　　5月31日(日)
4. 通信の発行　年4回(6月・9月・12月・4月)
5. 見学旅行　　年1回
6. 役員会　　随時
7. 矢出川道跡地総合調査　　10月

(第 3 号 議案)

昭和 56 年度会計予算(案)

収入の部

項　　目		本年度予算額	前年度予算額	比　較	説　明
1 緑　越　金	1) 緑　越　金	0	20.016	20.016	
2 会　費	1) 会　費	100.000	80.000	20.000	
3 委　託　料	1) 委　託　料	0	0	0	
4 会報光上金	1) 会報光上金	30.000	10.000	20.000	
5 寄　付　金	1) 補　助　金	0	0	0	
	2) 寄　付　金	80.000	0	80.000	
6 雜　入	1) 雜　入	0	9.984	9.984	
合　　計		210.000	120.000	90.000	

昭和 55 年度決算額

収入総額 110.016 - 支出総額 185.690 = 差引 - 75.674 円

支 出 ◎ 部

項 目		本年度予算額	前年度予算額	比 較	説 明
1 賃 酬	1) 謝 礼	20.000	10.000	10.000	
2 需 要 費	1) 印 刷 費	40.000	45.000	△ 5.000	
	2) 消耗品費	10.000	10.000	0	
	3) 食 料 費	20.000	15.000	5.000	
3 事 務 費	1) 電 信 費	20.000	20.000	0	
4 事 務 局 費	1) 事務局費	10.000	10.000	0	
5 税 出 金	1) 稽 申 費	10.000	5.000	5.000	
8 予 備 費	1) 事 備 費	3.526	5.000	△ 5.000 3.326	役員旅費
9 越 錢 金	1) 極 越 金	△ 76.674	0	76.674	前年度赤字解消
合 计		210.000	120.000	90.000	

収入總額 210.000円

支出總額 155.326円

赤字支出 76.674円

差 引 0円

佐久考古 通 25 号

発行所：佐久市岩利田 1040～7 木内 捷方

佐久考古学会事務局 (02676) 8 0617

発行者：由井 浩也

編集者：林 幸彦 花岡 弘 広田 純子

- 一、追悼号の発行
- 二、教育功劳で表彰
- 三、矢出川遺跡群総合調査
- 四、矢出川遺跡群総合調査に参加して
- 五、研修旅行
- 六、発掘十ヶ
- 七、発掘研究への参加依頼
- 八、会員納入のお願い
- 九、昭和五七年度佐久考古学会総会のご案内
- 十、例会だより
- 十一、編集後記

佐久考古通信

No. 24

1982, 4, 30

佐久考古学会



りのひな

追悼号の発行

古学會にこつてもうれしいことです。
おめでとうございます！

佐久考古學會創立以来、活潑された竹内・
與水・与良・武蔵・島山氏が逝去され、五氏
をしのぶ追悼号の企画がなされて以来、よう
やく編集委員の努力により発行の運びとなり
ました。

佐久考古學會の運営や公員の指導に努力さ
れた先輩五氏の功績に対し感謝の意をこめて
作成した追悼号は、ご家譜の方々にも大変喜
ばれました。また、五氏と義父の深かつた佐
久史談公等の方々にも広く読んでいただいて
あります。

尚、與水利雄・竹内恒西氏の奥様より過分
のお札金をいただきました。

教育功労者で表彰

去る十一月四日、昭和五六年度京教育頒佈
功労者の文化部門で由井茂也公長が表彰され
ました。

一昨年の藤森第一賞受賞に引き続いて佐久考
古學會の年中出業

矢出川遺跡群総合調査

矢出川遺跡群総合調査は、十一月四日から十
五日まで行なわれました。

調査への参加は、佐久考古學會の事業調査
の中に盛りこまれており、当分からは、上層
忠芳・山井茂也・由井弓・山井一樹・井上正
隆・萩原範仁・土屋良久の十六名が参加し、
慎重な勉強をしました。

矢出川遺跡群総合調査に参 加して

佐藤 篤

昨年度、今年度と二回に亘る矢出川遺跡群
総合調査に参加できたことは、参加者のみが
味わう生涯忘れ得ぬ経験となるであろう。

一昨年に引き続き、佐久考古學會の年中出業

研修旅行

秋の研修旅行は、陶磁器のルーツを訪ねて
十一月十五日～十六日の二日間、愛知県立陶
磁資料館及び貝田山民窯博物館等を見学し、
多くの知識を得ることができました。

研修旅行に際し、木内事務局長、林幸彦公
員には佐久市教委を通じてバス等のご配慮を
いただきました。厚くお礼申し上げます。

計画の中で、「矢出川遺跡群総合調査への参
加」が全員一致で認められ、昨年の調査の中
で親しく交流した先生方や学生諸君との再会
であつた。新聞由井さんの顔が目に浮んでき
た。由井さんの数年の努力がまたしても実つ
たのである。

数々の成果が上った今年度の調査から、今
後の地元研究者の役割と認識を新たにしたの
である。

昭和 57 年 4 月 30 日

(3) 佐 古 沖 久 位 伸

発 報 十 首

士郎 忠芳

針のとく 痛むつふつと 遠近振る
土にきらめく 懸波あたのゆ

一万年 疎き書の欠出用に 渡跡の語る

民の生きざま

六十度の 寒風の中 通路拂る
体とて、口も開けず

八ヶ岳

日の前にあり 雄大の

岩間に懸物 振りし風はも
舌も振りし 宿生の當時に 困められて

家詠う並ぶ かかる風の
(五月十三日佐古見つより)

折しき 石落交歎し 叶ひあり
との苦びを じつとかみしむ

千年の 単位と墨ひし

万年といふ 疎き場見つ

幾帳か 使ひし上品の 無けつきに
50%減のすがえ 誰がえりくら

島田 原子

そここに 護院城は 並びありて
現世あらゆ お時かなは の船は

世界一の 賀茂天文台の すぐ下に

幾万年前の 民も生きしと

佐久市教育委員会より左記の発表調査の報告書がありました。参加出来た方はこの機会を大切にして勉強して下さい。

期日 六月初旬開始予定

場所 岩村田北原久保遊苑

(詳細につれては事務局へお問い合わせ下さい)

発 報 調査への 参 加 依頼

公費加入の方様へ

公費を負担されている方には、振替用紙を提出したので加入をお願い申し上げます。
五七年度には、割合の縮小をした所公費を負担する所だてありますので、御協力をお願いします。

振替用紙の方は、近日間からさすがわの
時に郵便局下物さん

（会計係より）

卷五十七

乙
案
內

例云だより

昭和五十七年坂佐久考古学部の総会を、左記により行ないます。第一回の総会ですので、方隊お総合せの上から席下さりますよう御案内申し上げます。

五月例会により、長い間の研究テーマで、ある「赤い土器」ものよきよさごめの發明に入り今年度の研究が具体化されました。

各市町村の先生指導一覽表がまだ不十分な
地区は次の通りです。総会の口までに提出下

一、日 時 六月六日(日)午後一時

七
地
所

三、日程・昭和五六年度会費、決算、会計

監査報告及び承認の件

昭和五七年度事業計画（案）及

び会期予算(緊)本部の件

・昭和三七年改修の件

一
七

四、三 演「祭月町における考古学的調査

発達資料を中心に

五、志穂久 佐久ホテル

以
上

上卷

14

續編

め改してしまいました。後が

卷之三

貿易不足のためスムーズに発送がせきつかれ

ん。新しい年度より専門会員登録をお願い申

دیکشنری اسلام

陈 红 声 书 信 / 24

执行行：你在哪里购买的？

新文書古学全集叢書 (92676) 8-0617

卷之三十一

译者：林 希 莉 花 园 弘 易 田 美 子

- 一、昭和五七年度佐久考古学会總会次第
- 二、昭和五六年度佐久考古学会会務報告
- 三、昭和五六年度会計決算報告
- 四、昭和五七年度事業計画（案）
- 五、昭和五七年度会計予算（案）

佐久考古通信

版 25

1982, 6, 6

佐久考古学会



くろゆり

昭和 57 年度佐久考古学会総会次第

1. 日 時 昭和 57 年 6 月 6 日 (日) 午後 1 時 ~

2. 場 所 佐久市岩村田 渋間会館 大会議室

3. 日 程 (1) 開会のことば

(2) 会長あいさつ

(3) 日 程 説明

(4) 議 長 選 出

(5) 議 事

第 1 号議案 昭和 56 年度会務・決算・会計監査報告及び承認の件

第 2 号議案 昭和 57 年度事業計画(案)承認の件

第 3 号議案 昭和 57 年度会計予算(案)承認の件

第 4 号議案 会則変更に関する議案

第 5 号議案 役員改選

(6) その他 (帳役員に關する件)

4. 講 演 公 「 望月町における考古学的調査 発掘資料を中心に」

講 師 福島 邦男・渡辺 重義 公員

5. 懇親 公 公場 佐久ホテル

以 上

(第 1 号 諸案)

昭和 56 年度佐久考古学会会務報告

56年5月31日 岩村田浅間山館において総会及び明治大学教授大塚初重先生による「日本の古墳文化と佐久の古墳」と題した講演会を行なう。

56年10月29日 第1回役員会 57年5月15日 第2回役員会

56年6月13日第1回例会 7月11日第2回例会 9月12日第3回例会
 10月10日第4回例会 12月19日第5回例会及忘年会 1月23日第6回例会及新年会
 2月13日第7回例会 5月15日第8回例会

57年4月30日 佐久考古通報第24号発行
 6月 6日 佐久考古通報第25号発行

56年6月10日 佐久考古学会員名簿の作成

57年11月4日～15日 矢出川遺跡群総合調査への参加（16名が参加）

57年11月4日 県教育功労文化部門で由井茂也会長が表彰される

57年10月15日～16日 研修旅行（瀬戸市・愛知県立陶磁博物館他）

以 上

(第 4 号 諸案)

会則変更に関する件

第4条 本会の会員は本会の主旨に賛同し会費を納入した者を会員とする

（ただし、会費の請求をしたにもかかわらず、二年以上滞納した者は退会処分をする
 なお、会費納入があつた場合は、ただちに会員として復権できる）

（ ）内に付記する

昭和 56 年度会計決算報告

収入の部

単位円

項 目		本年度予算額	本年度決算額	比 繩	説 明
1 越 金	1) 越 金	0	0	0	
2 会 費	1) 会 費	100,000	46,000	△54,000	計 17人
3 委 托 料	1) 委 托 料	0	0	0	
4 会報売上金	1) 会報売上金	30,000	54,000	24,000	竹内興水各1万
5 寄 付 金	1) 抽 助 金	0	0	0	
	2) 寄 付 金	80,000	76,221	△3,779	
6 雑 入	1) 雑 入	0	0	0	
合 計		210,000	176,221	△53,779	

支 出 の 部

項 目		本年度予算額	本年度決算額	比 繩	脱 税
1 賞 酬	1) 謝 礼	20,000	13,500	6,500	
	2) 印 刷 費	40,000	10,700	29,300	
2 番 要 費	2) 消耗品費	10,000	0	10,000	
	3) 食 料 費	20,000	13,746	6,254	
3 徒 歩 費	1) 通 信 費	20,000	15,800	4,200	
4 事 務 局 費	1) 事 務 局 費	10,000	1,220	8,780	
5 繰 出 金	1) 繰 出 金	10,000	5,000	5,000	
6 予 備 費	1) 予 備 費	3,326	0	3,326	
7 越 金	1) 越 金	△76,674	(76,674)	△76,674	
合 計		210,000	59,966	150,034	

収入総額 176,221 - 本年度決算額 59,966 = 赤字支払 76,674 - 前引 39,581 円

以上の通り相違ないことを認めます

会計監査

白倉 盛男 (印)

渡辺 重義 (印)

(第 2 号 譲案)

昭和 57 年度事業計画 (案)

1. 総 会 6月6日(日)午後1時~
2. 講 演 会 6月6日(日)午後3時~
3. 例 会 月1回第2土曜日 午後2時~(機関会館前の佐久市資料室) 8月・1月徐々(7月10日・9月11日・10月9日・11月13日・12月11日忘年会
2月10日・3月12日・4月14日)
4. 通信の発行 年4回(6月・9月・12月・4月)
5. 見学旅 行 年1回
6. 役 員 会 隨 時

(第 3 号 譲案)

昭和 57 年度会計予算 (案)

収 入 の 部

項 目		本年度予算額	前年度予算額	比 較	説 明
1 機 越 金	1) 機 越 金	39,581	0	△ 39,581	
2 会 費	1) 会 費	100,000	100,000	0	
3 委 托 料	1) 委 托 料	0	0	0	
4 会報売上金	1) 会報売上金	20,000	30,000	10,000	
5 寄 付 金	1) 補 助 金	0	0	0	
	2) 寄 付 金	0	80,000	80,000	
6 稽 入	1) 稽 入	419	0	△ 419	
合 計		160,000	210,000	50,000	

支 出 の 部

項 目		本年度予算額	前年度予算額	比 較	説 明
1 備 賦	1)賜 礼	10.000	20.000	△10.000	
	1)印 刷 費	70.000	40.000	30.000	通信20.000 会誌50.000
2 業 務 費	2)消耗品費	10.000	10.000	0	
	3)食 料 費	25.000	20.000	5.000	
	4)役務費	20.000	20.000	0	
5 事 務 局 費	1)事務局費	10.000	10.000	0	
6 旅 出 金	1)旅 用 費	10.000	10.000	0	
7 予 備 費	1)予 備 費	5.000	3.326	1.674	
7 誤 越 金	1)誤 越 金	0	△76.674	△76.674	
合 計		160.000	210.000	△50.000	

佐 久 考 古 通 晴 本 25 号

発行所：佐久市岩村庄1040～7 木内 捷方

佐久考古学公募専門 (02676) 8 0617

発行者：由 井 武 也

編集者：林 幸 彦 花 岡 弘 岩 田 恵 子

- 一、あいさつ
- 二、昭和五七年度総会報告
- 三、新役員の紹介
- 四、例会だより
- 五、昭和五六年度佐久平の発掘調査略報
- 六、取扱書籍について
- 七、編集後記

佐久考古通信

No.26

1982, 7, 26

佐久考古学会



さといも

あ
い
さ
つ

公長由井茂也

去る六月六日の佐久考古学会五十七年度総会に於て、役員の改選が行なわれました。

その結果、正職会長、事務局長、監査委員が決まり、各役員の承認を得ることが出来、ついで、六月十九日の役員会において、別頭のように事務局監査、各地区委員を選任委嘱することになりました。これで、五七年度事業計画に従つて活動を始める訳ですが、会員の皆さんのご協力を切にお願い申し上げます。尚、比の無特に会員の皆さんにお願い致しましておかなればならないことは、例会に於ける久しい懇親の一いつである「赤い土器を送る」についての継続とめであります。会員皆さんの熱心な研究と協賛力によつて赤い懇親の機会を迎えることができるよう具体化されました。佐久平を中心とした学生時代の特色ある様相を会員の手で明らかにすることの出来る日に向つて頑張りたいと思ひます。

昭和五七年度総会報告

昭和五七年佐久考古学会総会は、佐久市

監査より監査報告があつて、全員の賛成で議決された。さらに五七年度事業計画、予算案についても異議なく承認された。

次に第4号議案として会則の変更に關する
件を上程、第4条、会員の資格に「ただし、
会費の納入をしたにもかかわらず、2年以上
未納した者は退会処分をする。」
ただが通貨貿易の昨今、会の財政の破綻を
救ひたためにはやむを得ない措置と思われた。
日常生活の多忙にまぎれでついつかりして
いた、といふ人のためには「会費納入があつ
た場合は、直ちに会員として復活できる」と
いう一項がつけ加えられたのは大変よい。」
場一致で可決した。今後会員一同、是非通勤
のまゝようにならひものです。

黒岩正則公良からは、年齢、健康等を理由に強く辞意が表明されていた。しかし、若い研究者が育ちつつある現在、経験豊かな先輩者にもう一期頑張ってもらおう、との間にスムーズなバトンタッチのできるよう条件を整えたい。という切実で、前向きな希望が強くだされた。先日の役員会でも真剣にこのことが話されていた。選考委員（井出・白田・三石・井上・大井）はこれ等の事情を考慮して公長由井茂也、岡部長嶋忠男、白倉盛男、事務局長木内捷、監査課辺重義、佐藤春の諸氏を派出して、万端一致賛成を得た。前回公長藍波平治氏は残念ながら学校勤務の事情で全く出席不可能なので、白倉盛男氏に代わってもらうことになったが、今期若い研究者の活動の基盤づくりには、ものとも情報すべくよき指導者を得たものであって、他康に留意されつゝご活動されるよう願うものである。

◎原稿提出〆切口 十二月末

◎発行年月年 総括原稿執筆一月と二月末

◎印刷三月と四月

◎発行四月末

昭和五六年度佐久平の発掘調査報告

豊月町 金塚遺跡

○所在地 北佐久郡豊月町大字春日宇金塚
○調査年月日 昭和56年8月5日と9月3日
○参加者 森島邦男・渡辺重義・黒岩忠男・三石延雄・佐藤敏也
○検出遺物 雅文式時代早期住居址3、平安時代住居址4、土塙(雅文式早期2、時期不詳1)、柴石址2(寺跡不詳)

○調査概要 1金塚遺跡検出遺物で注目されるものは、雅文式時代早期の堅穴住居址である。豊月町においては、新水戸道跡の4軒に統合して、大高村七軒目の検出である。県内に於ては、大高村鍋久保遺跡例、國谷市鶴沢遺跡例を含む10軒

内外かと思われる。新水戸道跡及び金塚遺跡の共通点は、プランが方形ないしそれに近い横円形を成していること、一边が約4.0前後であること、柱穴が壁外を巡っていること、炉址は屋外にあることなどがあげられる。もう一つ注目されるのは遺物である。金塚では、山形・横円押型文土器、玉戸系土器群、慈系文系土器群が同一住居址内に共存して出土している。つまり、中部高地系土器群、東北系土器群、関東系土器群が共存しているといふ重要な認識である。「伴出が浪在かは多年明らかにならなかつたものの一つであつて(中略)それにビリオドをつける重要な所見(森島)」である。また、押型文土器は中部高地型式の禮式式に加え、近畿地方に心を置く高尾寺式の粗大押型文土器が同様住居址から出土していることより、文化系統論や編年問題に対しても重要な所見を与えるものである。

内外かと思われる。新水戸道跡及び金塚遺跡の共通点は、プランが方形ないしそれに近い横円形を成していること、一边が約4.0前後であること、柱穴が壁外を巡っていること、炉址は屋外にあることなどがあげられる。もう一つ注目されるのは遺物である。金塚では、山形・横円押型文土器、玉戸系土器群、慈系文系土器群が同一住居址内に共存して出土している。つまり、中部高地系土器群、東北系土器群、関東系土器群が共存しているといふ重要な認識である。「伴出が浪在かは多年明らかにならなかつたものの一つであつて(中略)それにビリオドをつける重要な所見(森島)」である。また、押型文土器は中部高地型式の禮式式に加え、近畿地方に心を置く高尾寺式の粗大押型文土器が同様住居址から出土していることより、文化系統論や編年問題に対しても重要な所見を与えるものである。

示しているといえる。近年にわざと押型文土器を出土する住居址が脚光をあびてきているが、新たに検出された金塚遺跡も重要性を示すものと考えている。

(福島 耕男)

小諸市 野火付古墳

野火付古墳は、小田井・御影地区土地改良事業に伴う調査で、小諸市大字御影新田字野火付に位置し、十一月十一日から十一月三十日まで行なわれた。

墳丘は、台地斜面を利用した、いわゆる「山寄せの古墳」であり、平安時代に追跡が行なわれていた。

遺物は少なく、勾玉・切子玉・丸玉・人骨・符珠磨石)・阿彌石器(青銅鏡、西村通鑑文献)、尖頭器、石鏃、スレーブなどがある。

小諸市教育委員会 一九八二『野火付古墳』
(花岡 弘)

佐久市 石附遺跡

本遺跡は、国道一四二号線バイパス予定地内に一部かかるため工事に先立ち緊急発掘調査された。

立科山塊の東端には北東に伸びる丘陵が其
中には、飛鳥と平安時代の遺跡が存在する。
峰に御牧原から五郎兵衛新田、岸野にかけて
は、粘質の強固な良質の朽土層が分布してお
り、上小・佐久地方の須恵器窯跡群の密集地
帯となつてゐる。

今迄調べては、4基の窯址が調査されたが、
調査区域の両側には遺物の分布状況や地形から
5基以上の窯址の存在が予想される。

4基のうち1基は相模原の岩石層をくり抜いて築かれた登殿であり、7世紀後半から8世紀初頭とおもわれる須恵器・蓋杯・瓶・鉢等が出土している。(IK-1)

他の3基は、登場の精造をもつた本体部に
掲き出しがで流れる制御部の施設を伴つ

佐久市 小金平遺跡

卷之三

佐久市 小金平遺跡

松岸の平井部落の東方に位置する。現在も

付近に瓦窯を営む土窯柄だけあって、地山は強質の粘土が広範囲にみられる。この粘土は乾くとカチカチになり、調査は難行した。

近頃は、隨文時代前期の生居址1棟、奈良

佐久市 野馬窪遺跡

卷之三

野馬狩遊隊は、五六年六月に佐久幼稚園の開設増築に先立ち緊急発掘調査された。所轄地は、佐久市大字無久保である。

焼出筋は、男生時代後期吉田式期の住居址2棟等でらつた。住居址の平面形態は、頗る九方形で、入口部のピットや土柱穴等は殆ど

水式刷と大差ないが、炉に変化がみられた。
いわゆる石回の炉であり、河原石（主とし
て安山岩）が「コ」の字状に配されていた。
遺物は、壺・壺・杯・コシキ・手椎土器・
土製勾玉・磨滅石鏡が出土した。

上卷

1
2
3

佐久市 舞台 灰 遺跡

舞台場遺跡は、佐久市大字根岸、付近に所在する。発見は、界隈に発達した先立つて行なわれた。

住居址は、男生時代12棟、古墳時代10棟、奈良時代5棟、平安時代20棟が破壊され、その他掘立建物址、土塁が検出された。

出土遺物は、男生時代——壺・窓・杯・高杯・コシキ。古墳時代——壺・杯・コシキ。須恵器のコシキ・三輪スプーン。奈良時代——壺。平安時代——灰陶器・須恵器・高杯等である。

特に、土窯スプーン、須恵器コシキ、灰陶耳皿が注目される。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

佐久市

下大豆塚 1・ 2号古墳

本古墳は、佐久市大字長谷呂に所在し、県

宮段成形に先立ち五六年九月一十月かけて

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

調査された。

1号墳はやや崩壊の傾向がみられる。遺物は、盜掘をうけているため少く、なまづであった。

初子玉・口玉・铁錐・須恵器・人骨等が出土した。古墳時代後期の終末期に位置付けられよう。

(林 幸彦)

佐久考古資料26号をお届けします。本年度より、井出正義・林幸彦・花岡弘・島田豊三が担当します。より充実した会員全員の連絡紙にしたいと思つておりますので、活発なご投稿をお願い申し上げます。

取 放 書 稿 につ いて

事務局では、次の書類を取扱っています。
購入希望の方はお知らせ下さい。尚、知人に
もご紹介して下さい。

○「報告・野辺山シンボリカル1980」

1000円

○「報告・野辺山シンボリカル1981」

1000円

○「佐久に生きる」

500円

編集後記

佐久考古通信 26号

発行所：佐久市岩羽田1040～7 木内 挑方

佐久考古学会事務局 (02376) 8 0617

発行者：由井 茂也

編集者：井出 正義 林 幸彦

花岡 弘 島田 恵子

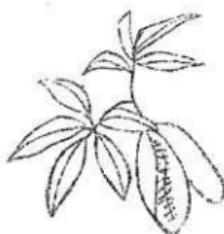
- 一、「赤い土器を追う」執筆要項について
- 二、チナートについて
- 三、趣味から学問へ
- 四、ご結婚おめでとう
- 五、畳石器
- 六、昭和五八年度佐久考古学会総会のご案内
- 七、編集後記

佐久考古学会

版 27 号

1982, 5, 20

佐久考古学会



あ け び

現に位置する土器部である。

示し得たものは、甕、高杯、片口のる点である。土器から推して、後期後業に位置すると考えられる。なお、包含層から字口縁台付裏口類の小片が2点出土している。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※

※※※※※※※※※※※※※※※※※※

井出正義 花岡弘 林幸彦 高村博文
白田武正 福島邦男 島田恵子
小山岳夫
以上

チャートについて

石器 小物 $\frac{1}{2}$ その他 13

土器 $\frac{1}{4}$
壺 槽 180

トレスベンの太さ
0.2
0.3
0.4
0.5
0.6
0.7
0.8
0.9
1.0
1.1
1.2
1.3
1.4
1.5
1.6
1.7
1.8
1.9
2.0
2.1
2.2
2.3
2.4
2.5
2.6
2.7
2.8
2.9
3.0
3.1
3.2
3.3
3.4
3.5
3.6
3.7
3.8
3.9
4.0
4.1
4.2
4.3
4.4
4.5
4.6
4.7
4.8
4.9
5.0
5.1
5.2
5.3
5.4
5.5
5.6
5.7
5.8
5.9
6.0
6.1
6.2
6.3
6.4
6.5
6.6
6.7
6.8
6.9
7.0
7.1
7.2
7.3
7.4
7.5
7.6
7.7
7.8
7.9
8.0
8.1
8.2
8.3
8.4
8.5
8.6
8.7
8.8
8.9
8.10
8.11
8.12
8.13
8.14
8.15
8.16
8.17
8.18
8.19
8.20
8.21
8.22
8.23
8.24
8.25
8.26
8.27
8.28
8.29
8.30
8.31
8.32
8.33
8.34
8.35
8.36
8.37
8.38
8.39
8.40
8.41
8.42
8.43
8.44
8.45
8.46
8.47
8.48
8.49
8.50
8.51
8.52
8.53
8.54
8.55
8.56
8.57
8.58
8.59
8.60
8.61
8.62
8.63
8.64
8.65
8.66
8.67
8.68
8.69
8.70
8.71
8.72
8.73
8.74
8.75
8.76
8.77
8.78
8.79
8.80
8.81
8.82
8.83
8.84
8.85
8.86
8.87
8.88
8.89
8.90
8.91
8.92
8.93
8.94
8.95
8.96
8.97
8.98
8.99
8.100
8.101
8.102
8.103
8.104
8.105
8.106
8.107
8.108
8.109
8.110
8.111
8.112
8.113
8.114
8.115
8.116
8.117
8.118
8.119
8.120
8.121
8.122
8.123
8.124
8.125
8.126
8.127
8.128
8.129
8.130
8.131
8.132
8.133
8.134
8.135
8.136
8.137
8.138
8.139
8.140
8.141
8.142
8.143
8.144
8.145
8.146
8.147
8.148
8.149
8.150
8.151
8.152
8.153
8.154
8.155
8.156
8.157
8.158
8.159
8.160
8.161
8.162
8.163
8.164
8.165
8.166
8.167
8.168
8.169
8.170
8.171
8.172
8.173
8.174
8.175
8.176
8.177
8.178
8.179
8.180
8.181
8.182
8.183
8.184
8.185
8.186
8.187
8.188
8.189
8.190
8.191
8.192
8.193
8.194
8.195
8.196
8.197
8.198
8.199
8.200
8.201
8.202
8.203
8.204
8.205
8.206
8.207
8.208
8.209
8.210
8.211
8.212
8.213
8.214
8.215
8.216
8.217
8.218
8.219
8.220
8.221
8.222
8.223
8.224
8.225
8.226
8.227
8.228
8.229
8.230
8.231
8.232
8.233
8.234
8.235
8.236
8.237
8.238
8.239
8.240
8.241
8.242
8.243
8.244
8.245
8.246
8.247
8.248
8.249
8.250
8.251
8.252
8.253
8.254
8.255
8.256
8.257
8.258
8.259
8.260
8.261
8.262
8.263
8.264
8.265
8.266
8.267
8.268
8.269
8.270
8.271
8.272
8.273
8.274
8.275
8.276
8.277
8.278
8.279
8.280
8.281
8.282
8.283
8.284
8.285
8.286
8.287
8.288
8.289
8.290
8.291
8.292
8.293
8.294
8.295
8.296
8.297
8.298
8.299
8.300
8.301
8.302
8.303
8.304
8.305
8.306
8.307
8.308
8.309
8.310
8.311
8.312
8.313
8.314
8.315
8.316
8.317
8.318
8.319
8.320
8.321
8.322
8.323
8.324
8.325
8.326
8.327
8.328
8.329
8.330
8.331
8.332
8.333
8.334
8.335
8.336
8.337
8.338
8.339
8.340
8.341
8.342
8.343
8.344
8.345
8.346
8.347
8.348
8.349
8.350
8.351
8.352
8.353
8.354
8.355
8.356
8.357
8.358
8.359
8.360
8.361
8.362
8.363
8.364
8.365
8.366
8.367
8.368
8.369
8.370
8.371
8.372
8.373
8.374
8.375
8.376
8.377
8.378
8.379
8.380
8.381
8.382
8.383
8.384
8.385
8.386
8.387
8.388
8.389
8.390
8.391
8.392
8.393
8.394
8.395
8.396
8.397
8.398
8.399
8.400
8.401
8.402
8.403
8.404
8.405
8.406
8.407
8.408
8.409
8.410
8.411
8.412
8.413
8.414
8.415
8.416
8.417
8.418
8.419
8.420
8.421
8.422
8.423
8.424
8.425
8.426
8.427
8.428
8.429
8.430
8.431
8.432
8.433
8.434
8.435
8.436
8.437
8.438
8.439
8.440
8.441
8.442
8.443
8.444
8.445
8.446
8.447
8.448
8.449
8.450
8.451
8.452
8.453
8.454
8.455
8.456
8.457
8.458
8.459
8.460
8.461
8.462
8.463
8.464
8.465
8.466
8.467
8.468
8.469
8.470
8.471
8.472
8.473
8.474
8.475
8.476
8.477
8.478
8.479
8.480
8.481
8.482
8.483
8.484
8.485
8.486
8.487
8.488
8.489
8.490
8.491
8.492
8.493
8.494
8.495
8.496
8.497
8.498
8.499
8.500
8.501
8.502
8.503
8.504
8.505
8.506
8.507
8.508
8.509
8.510
8.511
8.512
8.513
8.514
8.515
8.516
8.517
8.518
8.519
8.520
8.521
8.522
8.523
8.524
8.525
8.526
8.527
8.528
8.529
8.530
8.531
8.532
8.533
8.534
8.535
8.536
8.537
8.538
8.539
8.540
8.541
8.542
8.543
8.544
8.545
8.546
8.547
8.548
8.549
8.550
8.551
8.552
8.553
8.554
8.555
8.556
8.557
8.558
8.559
8.560
8.561
8.562
8.563
8.564
8.565
8.566
8.567
8.568
8.569
8.570
8.571
8.572
8.573
8.574
8.575
8.576
8.577
8.578
8.579
8.580
8.581
8.582
8.583
8.584
8.585
8.586
8.587
8.588
8.589
8.590
8.591
8.592
8.593
8.594
8.595
8.596
8.597
8.598
8.599
8.600
8.601
8.602
8.603
8.604
8.605
8.606
8.607
8.608
8.609
8.610
8.611
8.612
8.613
8.614
8.615
8.616
8.617
8.618
8.619
8.620
8.621
8.622
8.623
8.624
8.625
8.626
8.627
8.628
8.629
8.630
8.631
8.632
8.633
8.634
8.635
8.636
8.637
8.638
8.639
8.640
8.641
8.642
8.643
8.644
8.645
8.646
8.647
8.648
8.649
8.650
8.651
8.652
8.653
8.654
8.655
8.656
8.657
8.658
8.659
8.660
8.661
8.662
8.663
8.664
8.665
8.666
8.667
8.668
8.669
8.670
8.671
8.672
8.673
8.674
8.675
8.676
8.677
8.678
8.679
8.680
8.681
8.682
8.683
8.684
8.685
8.686
8.687
8.688
8.689
8.690
8.691
8.692
8.693
8.694
8.695
8.696
8.697
8.698
8.699
8.700
8.701
8.702
8.703
8.704
8.705
8.706
8.707
8.708
8.709
8.710
8.711
8.712
8.713
8.714
8.715
8.716
8.717
8.718
8.719
8.720
8.721
8.722
8.723
8.724
8.725
8.726
8.727
8.728
8.729
8.730
8.731
8.732
8.733
8.734
8.735
8.736
8.737
8.738
8.739
8.740
8.741
8.742
8.743
8.744
8.745
8.746
8.747
8.748
8.749
8.750
8.751
8.752
8.753
8.754
8.755
8.756
8.757
8.758
8.759
8.760
8.761
8.762
8.763
8.764
8.765
8.766
8.767
8.768
8.769
8.770
8.771
8.772
8.773
8.774
8.775
8.776
8.777
8.778
8.779
8.780
8.781
8.782
8.783
8.784
8.785
8.786
8.787
8.788
8.789
8.790
8.791
8.792
8.793
8.794
8.795
8.796
8.797
8.798
8.799
8.800
8.801
8.802
8.803
8.804
8.805
8.806
8.807
8.808
8.809
8.810
8.811
8.812
8.813
8.814
8.815
8.816
8.817
8.818
8.819
8.820
8.821
8.822
8.823
8.824
8.825
8.826
8.827
8.828
8.829
8.830
8.831
8.832
8.833
8.834
8.835
8.836
8.837
8.838
8.839
8.840
8.841
8.842
8.843
8.844
8.845
8.846
8.847
8.848
8.849
8.850
8.851
8.852
8.853
8.854
8.855
8.856
8.857
8.858
8.859
8.860
8.861
8.862
8.863
8.864
8.865
8.866
8.867
8.868
8.869
8.870
8.871
8.872
8.873
8.874
8.875
8.876
8.877
8.878
8.879
8.880
8.881
8.882
8.883
8.884
8.885
8.886
8.887
8.888
8.889
8.890
8.891
8.892
8.893
8.894
8.895
8.896
8.897
8.898
8.899
8.900
8.901
8.902
8.903
8.904
8.905
8.906
8.907
8.908
8.909
8.910
8.911
8.912
8.913
8.914
8.915
8.916
8.917
8.918
8.919
8.920
8.921
8.922
8.923
8.924
8.925
8.926
8.927
8.928
8.929
8.930
8.931
8.932
8.933
8.934
8.935
8.936
8.937
8.938
8.939
8.940
8.941
8.942
8.943
8.944
8.945
8.946
8.947
8.948
8.949
8.950
8.951
8.952
8.953
8.954
8.955
8.956
8.957
8.958
8.959
8.960
8.961
8.962
8.963
8.964
8.965
8.966
8.967
8.968
8.969
8.970
8.971
8.972
8.973
8.974
8.975
8.976
8.977
8.978
8.979
8.980
8.981
8.982
8.983
8.984
8.985
8.986
8.987
8.988
8.989
8.990
8.991
8.992
8.993
8.994
8.995
8.996
8.997
8.998
8.999
8.1000
8.1001
8.1002
8.1003
8.1004
8.1005
8.1006
8.1007
8.1008
8.1009
8.1010
8.1011
8.1012
8.1013
8.1014
8.1015
8.1016
8.1017
8.1018
8.1019
8.1020
8.1021
8.1022
8.1023
8.1024
8.1025
8.1026
8.1027
8.1028
8.1029
8.1030
8.1031
8.1032
8.1033
8.1034
8.1035
8.1036
8.1037
8.1038
8.1039
8.1040
8.1041
8.1042
8.1043
8.1044
8.1045
8.1046
8.1047
8.1048
8.1049
8.1050
8.1051
8.1052
8.1053
8.1054
8.1055
8.1056
8.1057
8.1058
8.1059
8.1060
8.1061
8.1062
8.1063
8.1064
8.1065
8.1066
8.1067
8.1068
8.1069
8.1070
8.1071
8.1072
8.1073
8.1074
8.1075
8.1076
8.1077
8.1078
8.1079
8.1080
8.1081
8.1082
8.1083
8.1084
8.1085
8.1086
8.1087
8.1088
8.1089
8.1090
8.1091
8.1092
8.1093
8.1094
8.1095
8.1096
8.1097
8.1098
8.1099
8.1100
8.1101
8.1102
8.1103
8.1104
8.1105
8.1106
8.1107
8.1108
8.1109
8.1110
8.1111
8.1112
8.1113
8.1114
8.1115
8.1116
8.1117
8.1118
8.1119
8.1120
8.1121
8.1122
8.1123
8.1124
8.1125
8.1126
8.1127
8.1128
8.1129
8.1130
8.1131
8.1132
8.1133
8.1134
8.1135
8.1136
8.1137
8.1138
8.1139
8.1140
8.1141
8.1142
8.1143
8.1144
8.1145
8.1146
8.1147
8.1148
8.1149
8.1150
8.1151
8.1152
8.1153
8.1154
8.1155
8.1156
8.1157
8.1158
8.1159
8.1160
8.1161
8.1162
8.1163
8.1164
8.1165
8.1166
8.1167
8.1168
8.1169
8.1170
8.1171
8.1172
8.1173
8.1174
8.1175
8.1176
8.1177
8.1178
8.1179
8.1180
8.1181
8.1182
8.1183
8.1184
8.1185
8.1186
8.1187
8.1188
8.1189
8.1190
8.1191
8.1192
8.1193
8.1194
8.1195
8.1196
8.1197
8.1198
8.1199
8.1200
8.1201
8.1202
8.1203
8.1204
8.1205
8.1206
8.1207
8.1208
8.1209
8.1210
8.1211
8.1212
8.1213
8.1214
8.1215
8.1216
8.1217
8.1218
8.1219
8.1220
8.1221
8.1222
8.1223
8.1224
8.1225
8.1226
8.1227
8.1228
8.1229
8.1230
8.1231
8.1232
8.1233
8.1234
8.1235
8.1236
8.1237
8.1238
8.1239
8.1240
8.1241
8.1242
8.1243
8.1244
8.1245
8.1246
8.1247
8.1248
8.1249
8.1250
8.1251
8.1252
8.1253
8.1254
8.1255
8.1256
8.1257
8.1258
8.1259
8.1260
8.1261
8.1262
8.1263
8.1264
8.1265
8.1266
8.1267
8.1268
8.1269
8.1270
8.1271
8.1272
8.1273
8.1274
8.1275
8.1276
8.1277
8.1278
8.1279
8.1280
8.1281
8.1282
8.1283
8.1284
8.1285
8.1286
8.1287
8.1288
8.1289
8.1290
8.1291
8.1292
8.1293
8.1294
8.1295
8.1296
8.1297
8.1298
8.1299
8.1300
8.1301
8.1302
8.1303
8.1304
8.1305
8.1306
8.1307
8.1308
8.1309
8.1310
8.1311
8.1312
8.1313
8.1314
8.1315
8.1316
8.1317
8.1318
8.1319
8.1320
8.1321
8.1322
8.1323
8.1324
8.1325
8.1326
8.1327
8.1328
8.1329
8.1330
8.1331
8.1332
8.1333
8.1334
8.1335
8.1336
8.1337
8.1338
8.1339
8.1340
8.1341
8.1342
8.1343
8.1344
8.1345
8.1346
8.1347
8.1348
8.1349
8.1350
8.1351
8.1352
8.1353
8.1354
8.1355
8.1356
8.1357
8.1358
8.1359
8.1360
8.1361
8.1362
8.1363
8.1364
8.1365
8.1366
8.1367
8.1368
8.1369
8.1370
8.1371
8.1372
8.1373
8.1374
8.1375
8.1376
8.1377
8.1378
8.1379
8.1380
8.1381
8.1382
8.1383
8.1384
8.1385
8.1386
8.1387
8.1388
8.1389
8.1390
8.1391
8.1392
8.1393
8.1394
8.1395
8.1396
8.1397
8.1398
8.1399
8.1400
8.1401
8.1402
8.1403
8.1404
8.1405
8.1406
8.1407
8.1408
8.1409
8.1410
8.1411
8.1412
8.1413
8.1414
8.1415
8.1416
8.1417
8.1418
8.1419
8.1420
8.1421
8.1422
8.1423
8.1424
8.1425
8.1426
8.1427
8.1428
8.1429
8.1430
8.1431
8.1432
8.1433
8.1434
8.1435
8.1436
8.1437
8.1438
8.1439
8.1440
8.1441
8.1442
8.1443
8.1444
8.1445
8.1446
8.1447
8.1448
8.1449
8.1450
8.1451
8.1452
8.1453
8.1454
8.1455
8.1456
8.1457
8.1458
8.1459
8.1460
8.1461
8.1462
8.1463
8.1464
8.1465
8.1466
8.1467
8.1468
8.1469
8.1470
8.1471
8.1472
8.1473
8.1474
8.1475
8.1476
8.1477
8.1478
8.1479
8.1480
8.1481
8.1482
8.1483
8.1484
8.1485
8.1486
8.1487
8.1488
8.1489
8.1490
8.1491
8.1492
8.1493
8.1494
8.1495
8.1496
8.1497
8.1498
8.1499
8.1500
8.1501
8.1502
8.1503
8.1504
8.1505
8.1506
8.1507
8.1508
8.1509
8.1510
8.1511
8.1512
8.1513
8.1514
8.1515
8.1516
8.1517
8.1518
8.1519
8.1520
8.1521
8.1522
8.1523
8.1524
8.1525
8.1526
8.1527
8.1528
8.1529
8.1530
8.1531
8.1532
8.1533
8.1534
8.1535
8.1536
8.1537
8.1538
8.1539
8.1540
8.1541
8.1542
8.1543
8.1544
8.1545
8.1546
8.1547
8.1548
8.1549
8.1550
8.1551
8.1552
8.1553
8.1554
8.1555
8.1556
8.1557
8.1558
8.1559
8.1560
8.1561
8.1562
8.1563
8.1564
8.1565
8.1566
8.1567
8.1568
8.1569
8.1570
8.1571
8.1572
8.1573
8.1574
8.1575
8.1576

5. 玉類タイプ、めのうタイプ、蛋白石タイプ

(非結晶、結晶質)

6. 放散虫チャートタイプ (含化石)

無水珪藻 (S102) の純粹なもの分子

が正しく配列をした六方晶系の結晶したものがいわゆる水晶 (六方石) で、宝飾品や印材などに加工利用されているが、これにも紫色、乳白色、紅、透明、草入れなどの美しくしいものも稀に産出して珍重されている。動物には珪酸化合物が最も多いといふことは、その根拠となる。

岩塩マグマは珪酸化合物を多く含んでいるといふことになる。水晶には、マダマから結晶したるものと、硅酸溶液から晶出したものもある。

本來チャートは、堆積岩であるが玉髓やめのうのよう、火成岩中の間隙に硅酸が浸出として結晶 (コロイド状) から固結したものや結晶核子が出来はじめたまま固結したものである。これは、非結晶質物とか矽藻結晶質物と併んでおり、結晶顕微鏡で見ると偏光光学的性質から明らかに区別できる。

蛋白石は、粗粒源木質形の組織はそのままであるが、蛋白石と珪藻が炭化したもの、放散虫チャートは、粗粒源木質形の組織はそのままである。

1. トは水中微生物のラジオリヤなどの遺体がもつてゐた珪酸が堆積したもので化石から

説明する。

チャートを原材とした石器としては、舊文

時代の打製石斧 (新田遺跡出土) を二、三見

た記憶がある。石斧、石鎌は南佐久地方の繩

文期の遺跡からは比較的多く出土している。

それは、関東山地の西北端にあたる伝久山現

に至る処良質のチャートの層層があるからで

ある。

川上村の馬場平・柏垂・南牧村の矢出川の先土器時代遺跡からは、水晶のポイントやナイフ、細石刀等が出土するのも原石達地に近い地域性を物語っている。

とに角、水晶を中心とし、硅酸を主とした

チャートは、質硬く破片の切口は鋭利で、色も各種あり美しく、金属出現以前から人類生

されていたことは、佐久地方埋蔵文化財出土品からも実証されている。

(昭和五八年四月十七日、於一本柳)

白倉 盛男

越後から学問へ

相川 純次

私が考古学を始めたのは、学問としてではなく興味からでした。この分野に興味を持ったのは、兄が拾ってきた動物を形どつて展示

の土器や、カラスのように黒く透き通った石でできている矢じりを見た時からでした。こ

んなかわらしききれいなものが畠に並んでいる

のかと思ふ、自分で如何に何度も拾って行った

ものでした。そして命では、沢山の遺物を残す

ましても惜しまれました。

けれども、私の心にそら一コ一コの遺物が

いつの時代にどんな人達によって作られ、何

の目的に使われたのか、という謎がおいて

きて、これらは私の持っている知識では、解

して解明できずより深い研究を必要とします

さらに考古学といふのは、小さきことから

大きなことへと発展させていく、古代人の生

活状態や、どういうところに住んでいたのか

という地縛的なこと、そして、それそれの時代の文化がどこから伝つてきてどうなつたか

か、などということを解説していくことだと
思います。

そして、それらを知るために、地盤にある遺物だけではなく、暗く深い地中に眠っている古代のすべてのものを現代に甦らせ、多くの未知の部分を一つずつ解きあかしていかなければならぬと思います。

私の考古学のスタートは、美しいものに対するあれからでした。これを単なるあがれではなく、学問として追及してゆくためには、一層力を傾けてゆくつもりです。

岩村田高校三年生齊史同好会会員

ご結婚おめでとう！

細石器



由井 茂也

小指の爪を二つに割つたり、折つたりした
ような小さな石屑が石器だと教えられ、夢を

みるような機械と好奇心に誘われて、このチ
ップボケを石屑との認めたことが始まつた。もし、
その時点でもう少し学問との認めたことをして

桜の花が満開となつた四月二十四日、小諸市農協会館結婚式場において、会員の花岡弘さんと甘利雅子さんがご結婚されました。

統いて、四月三十日佐久市岩村田平安廟に

於て、工藤かよ子さんが、上平尾の温泉広吉さんとご結婚されました。

おめでとうございます。米水くお幸せであ
りますよう公員一同祈念申し上げます。

れても、天に向つて懸するようなことばかりである。

あのチッポケな石刀を完形品と考えたり、
頭部、中間部、末端部に区分して各々の機能
を考えたり、微に入り細をうがつた研究には
敬服するばかりであるが、私は私なりにそ
いすれも其に有用であり、どんを屑の一部分
まですべて無駄なく使われたものであると考
えている。石刀は、調整とか使用痕とかが認
められて、それだけが問題にされているが、
それ等の石刀はそれを使用した原人達の用
途によって組合わされた段階でそれぞれの機
能が發揮されたものだと思つてゐる。それは
熊や鹿やいのししには矢弾が、山鳥やうさぎ
には散弾を使うのと同様に考えて良いので
はないか。

細石器には、大、小、幅広、細長、曲線、
よじれ、鳥の羽根、千差万別の形をしたもの
があり、気さまなどと思われる調整がある。
それ等も私には、原始人の経験が創り出した利
器の機能の名残りだと考え、細石刀をながめ
る時、あるものは櫛の先端部に、あるものは
中間部に、あるものは後部に埋め込まれ、さ

まざまな形態の礫先が創り出されたのではないか。

これ等の礫先は、大、小や鋸刃さによつて、ある時は礫先に、ある時は吹矢、投矢

弓があつたとしたらその矢として威力を發揮したのではないか。多様な利器を想像すると、

その時代の環境や生物の存在までおもしろく想像されてくる。簡単な刃こぼれや調整も、

カミソリの刃を鍛の刃にしたと思えば、相手に負わせる傷は倍加されるだろう。

これ等はみな、学問ぬきの私の空想ばかりである。

苗演会「箱潜水式土器」

講師 笹沢 浩先生 飯山北高校教諭

懇親会他

当日公費を納入下さいますようお願いします。

佐久考古通報27号

編集後記

佐久考古通報27号

佐久考古通報27号

佐久考古通報27号をお届けします。

編集委員各自の忙しさからいつもの連刊で

内 容 五七年度公務・決算・会計報告

五八年度事業計画・会計予算の件

昭和五八年度佐久考

古字公報会のご案内

昭和五八年度佐久考古学会の総会を下記により行ないます。今から都合をつけてより多勢の公員の皆さんが出席されますようご案内申し上げます。

日 時 六月十八日(土) 2時

場 所 岩村田 説明会館大会議室

内 容 五七年度公務・決算・会計報告

佐久考古通報第27号

発行所：佐久市岩村田 1040～7 木内 捷方

佐久考古学会事務局(02676) 8 0617

発行者：由井 茂也

編集者：井出 正義 林 幸彦 花岡 弘 島田 恵子

佐久考古通信

- 一、昭和五八年度佐久考古学会総会次第
- 二、昭和五七年度佐久考古学会会務報告
- 三、昭和五七年度会計決算報告
- 四、昭和五八年度事業計画（案）
- 五、昭和五八年度会計予算（案）

No. 28 号

1983, 6, 18

佐久考古学会

昭和 58 年度佐久考古学会総会次第

1. 日 時 昭和 58 年 6 月 18 日 (土) 午後 2 時 ~

2. 場 所 佐久市岩村田 浅間会館 大会議室

3. 日 程 (1) 開会のことば
(2) 会長あいさつ
(3) 日 程 説 明
(4) 読 長 選 出
(5) 諸 事

第 1 号議案 昭和 57 年度会務・決算・会計監査報告及び承認の件

第 2 号議案 昭和 58 年度事業計画 (案) 承認の件

第 3 号議案 昭和 58 年度会計予算 (案) 承認の件

第 4 号議案 佐久考古学公研究報告第 1 集発刊 (案) 承認の件

第 5 号議案 矢出川遺跡の保存決議に関する件

- (6) そ の 他

4. 講 演 公 「箱清水式土器について」

講 師 笹 波 善 先 生 板山北高校教諭

5. 感 観 会 会場 佐久ホテル

以上

(第 1 号 講 演)

昭和57年度佐久考古学会会務報告

57年6月6日 滝間会館において総会を開く。

終了後、会員の福島邦男・渡辺重義氏を講師に「室町における考古学的調査」と題した講演会を行なう。

57年7月10日第1回例会 9月11日第2回例会 10月9日第3回例会
 11月13日第4回例会 12月11日～12日第5回例会（研修旅行兼忘年会） 昭和58年1月24日第6回例会（新年会） 2月12日第7回例会 3月12日第8回例会 4月16日第9回例会 5月14日第10回例会

57年6月19日第1回役員会 7月29日第2回役員会 昭和58年4月28日第3回役員会

57年7月26日 佐久考古通信第26号発行 58年5月20日佐久考古通信第27号発行 6月18日佐久考古通信第28号発行

57年12月11日～12日 研修旅行 浜松市立博物館～發呂遺跡方面
 58年5月3日「赤い土器を追う」第1回縄錦委員会

5月20日第2回編集委員会 6月10日第3回編集委員会

以上

昭和 57 年度会計決算報告

取入の部

単位円 ハ段

項 目	本年度予算額	本年度決算額	比 故	説 明
1. 繰 越 金	1) 繰 越 金	39,581	39,581	0
2. 会 費	1) 会 費	100,000	88,000	△12,000 27人
3. 委 托 料	1) 委 托 料	0	0	0
4. 会報売上金	1) 会報売上金	20,000	0	△20,000
5. 寄 付 金	1) 補 助 金	0	0	0
	2) 寄 付 金	0	0	0
6. 総 入	1) 総 入	419	0	△ 419
合 计		160,000	127,581	△32,419

支 出 の 部

項 目	本年度予算額	本年度決算額	比 故	説 明
1 報 酬	1) 謝 礼	10,000	6,000	△ 4,000
2 需 要 費	1) 印 刷 費	70,000	16,000	△54,000
	2) 消耗品費	10,000	0	△10,000
	3) 食 料 費	25,000	35,550	10,550
3 役 務 費	1) 邮 便 費	20,000	12,000	△ 8,000
4 事 務 局 費	1) 事 務 局 費	10,000	5,534	△ 4,466
5 繰 出 金	1) 繰 出 金	10,000	10,800	800
6 予 備 費	1) 予 備 費	5,000	7,000	2,000
7 繰 越 金	1) 繰 越 金	0	34,697	34,697
合 计		160,000	127,581	△32,419

以上の通り相違ないことを認めます

会計監査

渡辺 重義 (歩)

佐藤 敏 (印)

(第 2 号 譜案)

昭和 58 年度事業計画(案)

1. 総 会 6月18日(土)午後2時~
2. 詩 演 会 6月18日(土)午後3時~
3. 例 会 月1回第2土曜日午後2時~(佐久市埋蔵文化財資料室)

(第1回7月9日・第2回8月20日・第3回9月10日・第4回10月4日
 第5回11月19~20日伊香保温生シンポジウム・第6回12月10日忘年会
 第7回1月28日新年会・第8回2月11日・第9回3月10日・第10回4月
 14日・第11回5月12日) 変更のあった場合のみハガキで連絡します
4. 道伝の発行 年4回(7月・11月・1月・5月)予定
5. 見学旅 行 年1回
6. 役員会会 隨 時
7. 佐久考古学会研究報告書第1集の発刊(11月予定)

(第 3 号 譜案)

昭和 58 年度会計予算(案)

収 入 の 部

項 目		本年度予算額	前年度予算額	比較	説 明
1 緑 越 金	1) 緑 越 金	34.697	39.581	△ 4.884	
2 会 費	1) 会 費	60.000	100.000	△40.000	
3 委 托 料	1) 委 托 料	0	0	0	
4 会報売上金	1) 営業売上金	30.000	20.000	10.000	
5 寄 付 金	1) 捐 助 金	0	0	0	
	2) 寄 付 金	0	0	0	
6 雜 入	1) 雜 入	5.305	419	4.884	
合 计		130.000	160.000	△30.000	

支 出 の 部

項 目		本年度予算額	前年度予算額	比 級	説 明
1 報 酬	1) 謝 礼	10.000	10.000	0	
2 需 要 費	1) 印 刷 費	50.000	70.000	△40.000	
	2) 消耗品費	10.000	10.000	0	
	3) 食 料 費	25.000	25.000	0	
3 徒 歩 費	1) 通 信 費	20.000	20.000	0	
4 事 務 局 費	1) 事 務 局 費	20.000	10.000	10.000	
5 繰 出 金	1) 麗 帛 費	10.000	10.000	0	
6 予 備 費	1) 予 備 費	5.000	5.000	0	
7 繰 越 金	1) 繰 越 金	0	0	0	
合 计		130.000	160.000	△30.000	

メモ

佐 久 考 古 通 告 第 28 号

発行所：佐久市岩村田 1040~7 木内 捷方

佐久考古学会事務局 (02676) 8 0617

発行者：由 井 広 也

編集者：井 出 正 義 林 幸 彦

花 囲 弘 島 田 恵 子

佐久考古通報

No. 29 号

1984, 5, 25

佐久考古学会

一、奈良時代の土器群について — 小諸市曾根城遺跡の調査から — 花岡 弘

二、八ヶ岳東南麓における先土器時代石器群の
編年的位置づけについて（予察） 堤 隆

三、新入会員紹介

四、例会だより

五、日本一の大石碑全長解説される

六、昭和五九年度総会の御案内

七、編集後記



窓 井

奈良時代の土器群について

小諸市曾根城遺跡の調査から

花園 弘

近年、歴史時代の土器が注目を浴び、小地城での土器調査、土器の移動等についての研究が活発化し、さらにそれらの成果を基に地域的な構のつながりを探ろうとする試みも行なわれている。(註1)

佐久平においても、奈良時代に比定される土器群が漸増しつつあり、該期土器群の位置付けの必要性が生じてきている。

拙文では、今後の佐久平における奈良時代の土器群研究において少しでも裨益となり得ればと考え、昨年調査された小諸市曾根城遺跡の該期土器群について簡単に紹介してみたい。なお、実測圖を掲載できないため、報告書を参照いただければ幸いである。

曾根城遺跡は、小諸市大字御影新田字西瀬地(さいかち)、佐久市大字小田井字穴沢に位置し、出切りにはさまれた台地上に立地し

かえりの消失した蓋に見られる奈良時代の様相が備蓄した状態を示していると言え、年代的には8世紀初頭と考えている。

第Ⅳ期 第7号住居址出土資料を中心とす

る。第10号住居址出土資料を加えた。器種には、土師器長頸の壺、蓋、鉢、小形壺、杯、須恵器杯、蓋がある。土師器壺、鉢、小形壺にはタクロの使用が認められ、また、蓋には、タキが施されている。須恵器杯は、底部がへたり切りされるものがほとんどであり、口縁は、第Ⅰ・Ⅱ期に2分し得た。以下、土器群の概要について述べよう。

第Ⅰ期 第6号住居址出土資料を標式とし

第9号住居址出土資料を加えた。器種には、

土師器長頸壺、小形壺、鉢、杯、須恵器杯、蓋がある。土師器長頸壺は、二種あり、鬼萬系の壺へラケズリ調整を施されたものがある。須恵器杯は、底面へラ切り後、ヘラケズリが行なわれ、平底を呈している。蓋は、かえりのあるものとのものが第6号住居址で伴出している。

第Ⅰ期の土器群は、長頸の壺、かえりのある須恵器蓋に見られる古須代後期の様相と

出土資料が位置付けられるのではないかと考えている。したがって、少なくともⅠ期には区分が可能であろう。また、平安時代の土器

との関連も今後の課題である。以上、曾我義
してきました。筆者の勉強不足に加え、取り急ぎ
まとめたこともあり、また、関連する他地域
の資料も実見していないため、誤解している
点が多くある。そうした点について、大方
の御教示をいただければ幸甚である。

註1 たとえば、相武古代研究会・東洋大

学木米考古学研究会 一九八一『シン・
ボシウム盤状杯』

2 佐久市周防畠(ア)、(イ)両遺跡
小諸市宮ノ北遺跡(第7号住居址)等。

3 佐久平において、いわゆるロクロ土
器が奈良時代のいつ頃から出現する
のかは、今のところ明らかでない。他
地域、たとえば、北陸地方では、ロク
ロ土器のは、8世紀前半に出現す
ると考えられている。坂井秀児一九八三
「越後における7・8世紀の土器群相
と西朝(つづて)」「『信長』第55巻第4号

八ヶ岳東南麓における先土器時代石器群の 編年的位置づけについて(予案)、

堤 隆
編年的位置づけについて(予案)、

八ヶ岳東南麓は「先土器時代のふる里」な

どとも言われているように、幾多の先土器時
代遺跡が密集する地域であり、また、先土器
時代研究史の黎明期を飾った地域のひとつで
ある。それではこの地域にいついかにかな
る石器群が存在し、それらはどうに変遷
していくのであろうか。小規模では特に、こ

の地域の石器群の編年的位置づけについて若
干の予察をしてみたい。これについては、ロ

ーブ層堆积に亘り、石器群の編年の骨格の
しつかりとした南関東との対比を試みること

によって明らかにしてゆこう。

さて、B-P-30000年～20000年

にあたる時期は、南関東P-30000年～20000年

にあたる時期は、南関東P-30000年～20000年

においては、ナイフ形石器や局部磨

製石斧の出現、粗形石刀技法などがみられる
ようになる。八ヶ岳東南麓ではこの時期に相
当する遺跡は現在のところ確認されてはいな
い。この時期のメルタマールとも言える打製

石斧か局部磨製石斧等が発見されれば、Pn
age I期相当の石器群の存在が明らかとな
ろう。

つづく南関東P-30000年～20000年

か切出形ナイフ形石器、基部加工ナイフ形石
器がみられ、横剥ぎ技術がさかんに用いられ
る時期である。この時期に相当する石器群と

しては佐藤達夫氏によつて紹介された野辺山
B-5地点と矢出川第I遺跡の石器群があげら
れよう。野辺山B-5地点では切出形ナイフ形

石器と角錐状石器が、矢出川第I遺跡では横
剥片を素材としたナイフ形石器や切出形ナ

イフ形石器・基部加工ナイフ形石器が検出さ
れており、この時期はさらにa・b・c

れている。

南関東 Phase II 期には、発達した石刀技術とその石刃を素材としたナイフ形石器や、直先形尖頭器がみられるようになる。この時期に相当する石器群は、この地域では比較的多く存在するようである。その代表例として柏垂道跡のいわゆる茂呂型ナイフ形石器や、直先形尖頭器を含む石器群があげられよう。また、柏垂道跡においては、当該期の後半の様相として把頭される小形化、幾何形化したナイフ形石器の一群も存するようである。

南関東 Phase III 期は細石刀石器群をその内容とするもので、これには当然のことながら矢出川第 I 道跡の細石刀石器群が相当しよう。矢出川第 I 道跡にみられる細石刀石核は、いわゆる野原休場型石核が主体をなすが、これに九州の船井型細石刀石核の流れをくむものと考えられる海老山型船井型石核とともに、それらの細石刀石核が少數加わっている。また、矢出川第 I 道跡においては新潟県荒屋遺跡にみられるような貝岩製の舟底形細石刀石核が採集されている。當ににおいて前者のように石器群を示す石器群と後者の他の石器群を

示す石器群が混在する出来は、新石刀文化の短い時期のなかにあって大変興味深い。

南関東 Phase IV 期は大形の槍先形尖頭器や、槍先形尖頭器がみられるようになる。この時期に相当する石器群は、この地域では比較的多く存在するようである。その代表例として柏垂道跡のいわゆる茂呂型ナイフ形石器や、直先形尖頭器を含む石器群があげられよう。また、柏垂道跡においては、当該期の後半の様相として把頭される小形化、幾何形化したナイフ形石器の一群も存するようである。

南関東 Phase V 期は細石刀石器群をその内容とするもので、これには当然のことながら矢出川第 I 道跡の細石刀石器群が相当しよう。矢出川第 I 道跡にみられる細石刀石核は、いわゆる野原休場型石核が主体をなすが、これに九州の船井型細石刀石核の流れをくむものと考えられる海老山型船井型石核とともに、それらの細石刀石核が少數加わっている。また、矢出川第 I 道跡においては新潟県荒屋遺跡にみられる貝岩製の舟底形細石刀石核が採集されている。當ににおいて前者のように石器群を示す石器群と後者の他の石器群を

とによってその位置付けを明らかにしてみた。

当地域にあっては時期毎に存在する遺跡群に多くこそあれ、少なくとも B・P 20000 年以降においてはとぎれることなく先土器時代への移行期でもある。この時期に比定される石器群としては馬場平道跡のそれがあげられよう。馬場平道跡では大形木葉形の槍先形尖頭器や片刃器、両刃武器等が検出されて

いる。

さて、いわゆる「土器出現期」の道跡としては柏垂道跡と立石道跡があげられようか。

柏垂道跡においては土器の存在自体は確認さ

れていないが、新潟県小瀬ヶ浜穴等で検出

されている「槍刃」などとも呼称されている。

槍先形尖頭器が破壊されており、当該期の文

化的存在性を充分に予測させる。立石道跡に

おいては微難起源文土器や表裏縫文土器とともに槍先形尖頭器、搔器、削器、桑織器、櫛等が出土され、これまで八ヶ岳東南麓の先土器時代

昭和五九年五月十四日 脱稿

※ 引用参考文献は省略

表紙カット説明

ミニチュアの空形は 6-7 世紀の横穴式石室墳から発見されています。

これらは漢人系民族の集住する区域にのみ発見されていることから、中國・韓國の葬礼・祭式であると考えられています。

(水野正好「道政的世界」一九八三)

新入会員紹介

東京本部会員登録

御代田町大字馬頭口一五九四ノ七六

TEL 02673 2 2948

(五八年十二月より入会されました)

小林五郎

TEL 02675 3 3485
倉見渡

望月町茂田井

TEL 02675 3 4542

例会だより

(次の方々は五九年総会の日から入会されます。総会でお会いする事になりますので、先に紹介させていただきます。

例会は、毎月第二土曜日午後二時
佐久市中込原温泉文化財資料室の会議室
を貸りて行なっております。五十九年度
も引継いで同様に行ないますので、ご参加下さい。

TEL 02676 2 6121

小林五郎
TEL 02673 2 2948

望月町春日

掛川喜四郎

浅野村甲一三五九
喜四郎
TEL 02675 8 2559

佐久市高野町に所在する、北沢の大石碑が
六月九日に倒れ起こされました。
かねてより佐久町の文化財指定をしていた
だけようだ、教育委員会に申し入れをおとな
ついたのですが、この度、その準備をして
石碑が倒れたりすることのないよう整備を行
なう事になったのです。地中には一メートル
埋まっているというのがもつばらのうわさで
しか。頼から井出、三石、桑田の三名が荷物
して記録を取りました。地中には八十七センチ
全長二二三センチあり破損もなく実に素厚し
い立派です。コンクリートでしっかりと基礎を
つくり地上一九〇センチまで臺を見せていま
す。近い内にもう一度見学して下さい。

日本一大石碑
全長解説される

次回の例会は、七月十四日です。
今から万歳練合せて乳参加下さいますよう
お願い申し上げます。

昭和五九年度

総会の御茶内

(岡谷市教育委員会勧奨)

五、懇親会 佐久ホテル

以上

会員各位 残

佐久考古学会员
由井茂也

昭和五九年度の佐久考古学公総会を左記に
より開催します。
ご都合の上御出席下さいますよう御案内申
し上げます。

- 一、日時 六月九日(土)午後二時
- 二、場所 佐久市岩村田 花園会館
- 三、日程 • 昭和五八年度会費、決算、会計
監査報告及び承認の件
• 昭和五九年度事業計画(案)及
び会計予算(案)承認の件
• 佐久考古学会役員改選の件
• 県考古学会役員承認の件
• その他

編集後記

×××××
×××××
×××××
×××××
×××××
×××××

佐久考古通信第29号をお届け致します。
年毎に忙しくなり今年度の発行はすいぶん遅
無沙汰してしまい申し訳ありませんでした。
今回の花園会員と懇親会から研究論文を
お寄せいただき内容も光されました。お礼申
し上げます。

(E)

佐久考古通信第29号

発行所：佐久市岩村田1040～7 木内 捷万

佐久考古学会事務局 (02676) 8 0617

発行者：由井茂也

編集者：林 辛彦・花岡 弘・島田恵子

- 一、昭和五九年度佐久考古学会總会次第
- 二、昭和五八年度佐久考古學會會務報告
- 三、昭和五八年度會計決算報告
- 四、昭和五九年會計事業計劃（案）
- 五、昭和五九年會計予算（案）

佐久考古通信

No. 30 号

1984, 6, 5

佐久考古學會

& &

昭和 59 年度佐久考古学会総会次第

& &

1. 日 時 昭和 59 年 6 月 9 日 (土) 午後 2 時 ~

2. 場 所 佐久市岩村田 洋間会館 大会議室

3. 日 程 (1) 開会のことば

(2) 会長あいさつ

(3) 日程説明

(4) 総長選出

(5) 盛事

第 1 号議案 昭和 58 年度公務・決算・会計監査報告及び承認の件

第 2 号議案 昭和 59 年度事業計画(案)承認の件

第 3 号議案 昭和 59 年度公計予算(案)承認の件

第 4 号議案 佐久考古学会役員改選の件

第 5 号議案 長野県考古学会役員承認の件

(6) そ の 他

4. 講演会 「橋原遺跡の調査報告 弥生式土器を中心として」

講師 高林重水先生 岡谷市教育委員会

5.懇親会会場 佐久ホテル

以 上

(第 1 号 諸 案)

昭和 58 年度 佐久 考古 学会 会 務 報 告

~~~~~

1. 総 会 6月18日 午後2時～ 森間会館にて行なう
2. 講 演 会 6月18日 午後3時～ \*
 

〃箱清水式土器について〃 講師 筒 沢 浩先生
3. 例 会 第1回7月9日・第2回8月20日・第3回9月10日・第4回10月4日  
 第5回11月12日・第6回1月28日新華会・第7回2月11日・第8回3  
 月10日・第9回4月14日・第10回5月12日 以上により開く
4. 通信の発行 4月25日・6月5日 2回発行
5. 見学旅行 11月7日～8日 島浜遺跡
6. 役員会 6月15日 5月12日
7. 佐久考古学会研究報告書第1集の発刊(11月予定) 組過別に報告
8. 矢出川遺跡保存対策について 6月28日委員会発足 7月10日森間会館に於て特別  
 対策委員会発足 以下活動に保有運動展開 組過別に報告
9. 県考古学会秋季大会を佐久市にて行なう

以 上

## 昭和 58 年度会計決算報告

## 収入の部

単位円 △減

| 項        | 目        | 本年度予算額  | 本年度決算額 | 比<br>較  | 説明     |
|----------|----------|---------|--------|---------|--------|
| 1. 繰越金   | 1) 繰越金   | 34,697  | 34,697 | 0       |        |
| 2. 会費    | 1) 会費    | 6,000   | 4,500  | △1,500  | 21人 団1 |
| 3. 委託料   | 1) 委託料   | 0       | 0      | 0       |        |
| 4. 会報売上金 | 1) 会報売上金 | 3,000   | 0      | △3,000  |        |
| 5. 寄付金   | 1) 捐助金   | 0       | 0      | 0       |        |
|          | 2) 寄付金   | 0       | 5,100  | 5,100   | 市教委より  |
| 6. 雑入    | 1) 雜入    | 5,303   | 5,400  | 97      |        |
| 合 計      |          | 130,000 | 88,197 | △41,803 |        |

## 支出の部

| 項       | 目       | 本年度予算額  | 本年度決算額 | 比<br>較  | 説明               |
|---------|---------|---------|--------|---------|------------------|
| 1. 報酬   | 1) 謝礼   | 10,000  | 10,000 | 0       | 毎次               |
| 2. 需要費  | 1) 印刷費  | 30,000  | 8,000  | △22,000 | 通信2回             |
|         | 2) 消耗品費 | 10,000  | 550    | △ 9,450 | 封筒他              |
| 3. 役務費  | 3) 食料費  | 25,000  | 12,650 | △12,350 | 役員会<br>会員会<br>出川 |
|         | 4) 通信費  | 20,000  | 7,000  | △13,000 | ハガキ 切手           |
| 4. 事務局費 | 1) 事務局費 | 20,000  | 13,700 | △ 6,300 | 懇親会補助            |
| 5. 繰出金  | 1) 繰出金  | 10,000  | 2,000  | △ 8,000 | 本見舞              |
| 6. 予備費  | 1) 予備費  | 5,000   | 0      | △ 5,000 |                  |
| 7. 繰越金  | 1) 繰越金  | 0       | 34,297 | 34,297  |                  |
| 合 計     |         | 130,000 | 88,197 | △41,803 |                  |

以上の通り相違ないことを認めます 会計監査 渡辺重義 佐藤敏由

( 第 2 号 諸案 )

## 昭和 59 年度事業計画(案)

1. 節 会 6月9日(土)午後2時~
2. 講 演 会 6月9日(土)午後3時~
3. 例 会 月1回第2土曜日午後2時~(佐久市埋蔵文化財資料室会議室)
 

第1回7月14日・第2回8月11日・第3回9月8日・第4回10月13日  
                   第5回11月長野勝生シンポジウム・第6回12月8日忘年会・第7回1月12日  
                   新年会・第8回2月9日・第9回3月9日・第10回4月14日  
                   例会テーマ 赤い土器を追う (変更の場合のみハガキで連絡します)
4. 通信の発行 年4回(7月・11月・1月・5月)予定
5. 見学旅行 年1回(9月予定) 7月の例会までに各自希望地を出す
6. 後員会 隨 時
7. 佐久考古学会研究報告第1集の発刊(60年3月予定)
8. 矢出川遺跡保存対策について 隨 時

( 第 3 号 諸案 )

## 昭和 59 年度会計予算(案)

## 取 入 の 部

| 項 目     |          | 本年度予算額  | 前年度予算額  | 比 増     | 説 明 |
|---------|----------|---------|---------|---------|-----|
| 1 繰 越 金 | 1) 繰 越 金 | 34,297  | 34,697  | △ 400   |     |
| 2 公 費   | 1) 会 費   | 60,000  | 60,000  | 0       | 30人 |
| 3 委 託 料 | 1) 委 託 料 | 0       | 0       | 0       |     |
| 4 書籍売上金 | 1) 書籍売上金 | 0       | 30,000  | △30,000 |     |
| 5 寄 付 金 | 1) 補 助 金 | 0       | 0       | 0       |     |
|         | 2) 寄 付 金 | 0       | 0       | 0       |     |
| 6 雜 入   | 1) 雜 入   | 5,703   | 5,303   | 400     |     |
| 合 计     |          | 100,000 | 130,000 | 30,000  |     |

## 支 出 の 部

| 項 目        |            | 本年度予算額  | 前年度予算額  | 差 値     | 説 明 |
|------------|------------|---------|---------|---------|-----|
| 1. 報 賞     | 1) 贈 礼     | 20.000  | 10.000  | 10.000  |     |
| 2. 需 要 費   | 1) 印 刷 費   | 20.000  | 30.000  | △10.000 |     |
|            | 2) 消耗品費    | 5.000   | 10.000  | △ 5.000 |     |
|            | 3) 食 料 費   | 10.000  | 25.000  | △15.000 |     |
| 3. 役 務 費   | 1) 邮 便 費   | 20.000  | 20.000  | 0       |     |
| 4. 事 務 局 費 | 1) 事 務 局 費 | 15.000  | 20.000  | △ 5.000 |     |
| 5. 繰 出 金   | 1) 繰 出 金   | 10.000  | 10.000  | 0       |     |
| 6. 予 備 費   | 1) 予 備 費   | 0       | 5.000   | △ 5.000 |     |
| 7. 繰 越 金   | 1) 繰 越 金   | 0       | 0       |         |     |
| 合 计        |            | 100.000 | 130.000 | △30.000 |     |

メ モ

## 佐久考古通信 第30号

発行所：佐久市岩村田 1040-7 木内 捷方

佐久考古学会事務局(02676) 8 0617

発行者：由井 茂也

編集者：井出 正義 林 幸彦

花岡 弘 島 田 恵子